



卓球王国連載パック“ePAC.”

全日本卓球選手権大会 (2015.1 / 平成26年度)

【REAL! TT 速報 全日本2016.1】バージョン

卓球王国2015年4月号(vol.215)に掲載した、平成26年度(2015年1月開催)の「全日本卓球選手権」報道記事、全61ページ(e Bookで追加した扉や余白を除く)をまとめた。

卓球王国



【王国 e book】について

● この【王国 e book】(e PAC.)は、月刊『卓球王国』誌に掲載された連載やシリーズをまとめたパックです。

● **閲覧は、卓球王国WEB【REAL! TT 速報 全日本2016.1】で有料速報をご利用いただいている方の、個人的な利用に限らせていただきます。** 商用利用、複製したファイルの譲渡、販売、ネット等での配布を禁止します。PDF から一部のデータを抜き出したものについても同様です。

● **本ファイルの複製は原則禁止**です。ただし、お買い上げいただいた方の個人利用に限り、ご自身所有の複数の装置（パソコン、タブレット等）にコピーして閲覧することが可能です。

● お問い合わせは、卓球王国WEB「お問い合わせ」フォーム（トップページ画面左下の青字リンク）から、もしくは以下宛にお願い致します。

（株）卓球王国
電話 03-5365-1771

見開き表示の
右ページ

閲覧に際して

● PDF形式による電子書籍で、パソコンやタブレットなどでご覧いただけます。PDFの閲覧には「Adobe Reader」またはその他のPDF閲覧ソフトをご使用ください。

● パソコンのモニターで閲覧する場合、ページ表示を「見開きページ」に設定すると、実際の冊子のように見開き表示で見やすいでしょう。タブレットで閲覧する場合は、「単一ページ」のほうがサイズ的に見やすいでしょう。

● 「Adobe Reader」で見開き表示する場合、以下のように設定してください。設定に関する詳細は、「Adobe Reader」のヘルプ等をご覧ください。

① [ページ表示]メニューで「見開きページ表示」にチェックを入れる。

② [ページ表示]メニューで「見開きページ表示で表紙を表示」にチェックを入れる。

見開き表示では、本ページが左ページ、前ページが右ページに來れば、実際の雑誌と同じ配置になります。もし左右が逆に表示される場合は、「環境設定」(Windowsでは[編集]メニュー内、Macでは[Adobe Reader]メニュー内)の「言語」で、「デフォルトの読み上げ方向」を「右から左へ」に設定してください。

見開き表示の
左ページ



天皇杯・皇后杯
平成26年度
全日本卓球選手権大会

一般・ジュニアの部

1.12》18

[東京体育館]

各種目優勝者

男子シングルス
水谷隼 (beacon.LAB)

女子シングルス
石川佳純 (全農)

男子ダブルス
森園政崇 / 三部航平
(明治大 / 青森山田高)

女子ダブルス
平野早矢香 / 石川佳純
(ミキハウス / 全農)

混合ダブルス
吉村真晴 / 石川佳純
(愛知工業大 / 全農)

男子ジュニア
及川瑞基 (青森山田高)

女子ジュニア
伊藤美誠 (スターツ SC)

WOMEN'S SINGLES • WINNER

Kasumi ISHIKAWA

敗れざる者。

水谷隼の2連覇&7度目の優勝、石川佳純の2連覇&3度目の優勝、
男子ダブルス、女子ダブルスも連覇となった全日本。

若く強い世代が次々に押し寄せてくる中で、チャンピオンたちは正面から受けて立ち、はね返していく。
コート上で見せた彼らの力と精神力は、またひとつ全日本を高い舞台へ押し上げた。

取材=卓球王国編集部
covered by World Table Tennis editors

写真=江藤義典・奈良武
photographs by Yoshinori Eto & Takeshi Nara

MEN'S SINGLES • WINNER

Jun MIZUTANI



THE FINAL

*All Japan Championships
2015.1*

MEN'S SINGLES • **FINAL**

男子シングルス《決勝》

最強王者 圧巻の決勝戦

NISSH
の力
物のチカラ

CITIZEN
全日



例 年よりも1日延び、1週間という長期大会となった全日本選手権。

日程は長くなったが、大会のラストを飾るのは、今年も男子シングルス決勝だ。東京体育館のアリーナに1台のみ置かれたメインコート、その頭上のスポットライトが卓球台を照らしている。

決勝のコートに立ったのは、男子では史上初の9年連続決勝進出(女子は小山ちれがタイ記録)となる王者・水谷隼と、3つのゲームオールでの接戦を勝ち抜いてきた神巧也だ。水谷対勢いのある若手、それは昨年の決勝(水谷対町)によく似ている。ただひとつ違うことは、昨年の水谷は王者ではなかった。すでに5回の優勝を数えていたが、2連続決勝で逆転負けを喫し、挑戦者として戦った。

今年、再びチャンピオンとして全日本に臨んだ水谷は、王者の風格を取り戻していた。それは以前の5連覇中の水谷とは違った雰囲気に見えた。今までは王者として胸を貸すような、どこか余裕のあるプレーが多かった水谷だが、今年は相手との力量差を見せつけるかのように、攻め続けるプレーを貫いた。

「(格上の)ぼくが思い切った攻めなので、相手は相当なプレッシャーだったと思う」。水谷のこの言葉には自分の強さへの自信が集約されている。

決勝は神が捨て身のプレーで両ハンドを振り抜き、スタートダッシュに成功。フルスイングで打ち込んでくる神の勢いは止まらず、4-8と点差を広げていった。「かなり相手に攻められていると感

寄せ付けない

MEN'S SINGLES

FINAL



FINAL VS

4	水谷隼 beacon LAB	VS	0	神巧也 明治大
11-8	11-9	8-6	11-6	11-8

じた。そこから気持ちを切り替えて自分から攻めていった（水谷）。

水谷はサーブとレシーブを散らして神を大きく動かしていく。フォア前に短くストップし、相手がつけないで来たボールをオープンニングのバックへ打ち込む。このプレーは以前からあったが、従来は同じコースでも緩いボールで確実に入れ、相手を下らせて優位なラリー展開にして得点を重ねていたが、今回の水谷は、チャンスを広げる一打が、チャンスを一撃で決める一打に変わっている印象を受けた。4-8から一気に7ポイントを取返し、第1ゲームを逆転勝ちで奪うと、そこから水谷の攻めは止まらなかつた。甘いサーブに対しての一発ドライブ、チキータからの連続強打、ループドライブを極力使わず、速いボールで攻め切った。

終わってみれば、水谷が終始試合をコントロールした決勝戦と言えるだろう。神の勢いを序盤で封じて、水谷のワールドへ引きずり込む。コースを読んだカウンターを何本も決めて相手の心を折り、心理的にも上に立った。

チャンピオンシップポイントを握り、最後はフォアストロークの強打を決めて、両手を突き上げた水谷。7度目の頂点は男子歴代2位となる記録だ。天皇杯を掲げ、再び連覇の道走り始めた水谷は、最多優勝の8回（齋藤清・小山ちれ）とのタイ記録まであと一つに迫っている。

勝ち方を知る比類なき経験値

7度目の頂へ

MEN'S SINGLES • WINNER

Jun MIZUTANI

MEN'S
SINGLES
優勝

水谷隼

[beacon.LAB・東京]

水

谷のボールは「一本」ことに理由がある。そう思ってしまうほど、緻密なコース取りとボールの変化を巧みに操る。レベルの上がっている日本男子の中で、これほどまで勝ち続けられるのは卓越した技術と経験値があるからだろう。そして自身の技術革新にも余念がない。

「自分は攻めの遅さを指摘されてきた。松平健太選手や丹羽選手に負けないように普段の練習から攻めの速さを意識してきた。速い攻めは中国選手の特長で、さらに彼らは威力のあるボールが打てる。少しでもそこに近づいていきたい」(水谷)

準決勝の岸川戦で見せた速い攻めは、その言葉どおりだった。ダブルスパートナーでもあり、お互いに手の内を知ったふたりの対戦だったが、ほとんどラリーにならずに水谷が前陣に貼りついて圧倒した。もともと中・後陣では無類の強さを発揮していた水谷に前陣での速攻が加わり、より弱点がなくなっている。また、サーブも改良を加え、順回転と逆回転(YGサーブ)を組み合わせて相手のレシーブを崩した。

6回戦で対戦した森園は「サーブの球種が多くて、タイミングも変えてくる。最初はチキータで狙っていたけど、途中からYGサーブを散らされて狙いにいけなくなった。たとえ打ったとしても自分がワントーン遅くなってしまいうので、水谷さん上から打ち込まれてしまう」と水谷のサーブ技術に屈した。また、岸川も「サーブとレシーブが格段に良くなっている。ラリーまでもっていけない」とコメント。世界のトップランカーで居続けるためには日進月歩の成長が必要。世界ランキング5

前・中・後陣に死角なし。
コートは水谷の庭だ！



↑ 笠原戦は「負けることを覚悟した」という水谷だが、徐々にボールに慣れていき、逆転勝ちを収めた

JUN MIZUTANI MEN'S SINGLES SCORE

【水谷隼・男子シングルのスコア】

● 4 回戦	8、6、5、4	龍崎東寅 (EA / 帝京)
● 5 回戦	6、-6、-8、-5、5、10、10	笠原弘光 (協和発酵キリン)
● 6 回戦	10、8、10、-9、9	森蘭政崇 (明治大)
● 準々決勝	11、4、8、-10、7	吉村真晴 (愛知工業大)
● 準決勝	3、6、3、9	岸川聖也 (ファースト)
● 決勝	8、9、6、8	神 巧也 (明治大)

※ EA = JOC エリートアカデミー

◀ 抜けたと思われたボールも水谷が当てればコートに引っ張られるように入る。空間把握能力の高さは随一

位は、今なお進化し続けている証拠だ。今大会、水谷が唯一のほころびを見せたのは5回戦の笠原戦。試合前のジャンケンで負け、不慣れなメーカーのボールを選ばれて、ゲームカウント1-3と王手をかけられてしまう。第6ゲームは10-6から、7ゲーム目は10-8から笠原に追いつかれるが、最後の1本を僅差で死守した。今年も水谷が日本を引っ張っていく。最強の男に課せられた次のターゲットは世界選手権シングルスでのメダル獲得だ。

以前は封印していたが今大会は積極的にYGサービスを使った水谷。「フォア前とバックにYGサービスを出されてチキータを封じられた」(森蘭)

進化する 水谷の サービス



Takuya JIN

MEN'S
SINGLES
準優勝じん
神巧也

[明治大・東京]

一世一代の大スパーク 神が舞い降りた!

神

のプレーは徹底していた。フルスイングで両ハンドを振り続け、相手のドライブに対してはリスクを負った一撃必殺のカウンターを狙いに行く。そして常に必死にボールに食らいつき、1本取ることに雄叫びを上げた。その一心不乱の攻撃で、5回戦で坪井、6回戦で大島、準決勝では丹羽をそれぞれフルゲームの大接戦で下した。特に大島戦はゲームカウント0-3と土俵際まで追い詰められたが、「点数は競っていたから1ゲームでも取ったらいけるかな」と思っていた。最後はどこまで自分を信じられるかだったから、信じました」と諦めない精神力で大逆転。神は今大会で何度もサプライズを起こした。

不利と思われた準決勝の丹羽戦でも勢いを継続。「たくさんの観客の前でプレーできるのがうれしい」と一世一代の当たり。中陣からの一発のバックドライブ、電光石火のカウンター、そして相手を飲み込むガッツポーズ、試合の主導権は神が握っていた。丹羽を台から下げさせて、ラリーに持ち込み、パワーで抑え込む。丹羽のスピードにパワーで対抗した。

決勝はストレートで敗れたが、11年に学生王者になって以来、久々に存在感を見せた神。12年は腰の故障から満身に試合に出られず、学生タイトルからも遠ざかってきたが、今年はスウェーデンリーグでの武者修行を経て、学生最後の試合で結果を出した。

「今まで4回戦を突破したことがなかったし、今回は強い選手に勝って、自信になった。でも決勝戦で負けて、水谷さんが天皇杯を受け取る姿を見たら、1位と2位は全



ラリーをしつこくつなぎ、丹羽の卓球を狂わせた神。泥臭く最後まであきらめない姿勢が勝利を呼び込んだ

逆転に次ぐ逆転で、
強豪を連破！
並み居るフルスイング
ミスター



中陣から一発で引き返すような豪快なバックドライブを何本も決めた

↑ 準々決勝ではベテランの吉田を圧巻の試合で破った。「短いアップサーブが効いたので、先手を取れた」(神)



然違うというのを感じた。自分自身も準優勝で満足しちゃうかなと思ったら、今悔しい気持ちがある。まだまだ頑張れるモチベーションがある。実力を安定させて、一番上に行ける選手になりたい」と決勝後に決意を口にした。

初ランク入り、そして準優勝という結果は素晴らしい躍進であり、今後のステップアップになることは間違いない。コートで懸命にラケットを振り続ける若者に卓球の神が舞い降りた瞬間を見た。

Jin Takuya MEN'S SINGLES SCORE

[神巧也・男子シングルのスコア]

● 2回戦	9、8、-10、6	葉田晋一郎	(ヒロタクススポーツ)
● 3回戦	8、12、6	鈴木将幸	(中央大)
● 4回戦	8、8、6、7	下山隆敬	(協発発酵キリン)
● 5回戦	9、-7、-9、7、-8、7、8	坪井勇磨	(青森山田高)
● 6回戦	-9、-8、-7、6、10、7、9	大島祐哉	(早稲田大)
● 準々決勝	9、9、3	吉田海偉	(Global Athlete Project)
● 準決勝	5、-4、-4、10、-5、7、8	丹羽孝希	(明治大)
● 決勝	-8、-9、-6、-8	水谷隼	(beacon.LAB)

水谷との決戦直前で力尽きるも
超速攻、炸裂するも

SEMI-FINAL

4 神巧也 明治大 VS 3 丹羽孝希 明治大

11	-	5
4	-	11
4	-	11
12	-	10
5	-	11
11	-	7
11	-	8



MEN'S SINGLES **3位** **丹羽孝希**
 [明治大・東京]



神の果敢なチキータに歯車が狂った丹羽。「普段はストップ主体なので、戸惑ってしまった」(丹羽)

① 昨年の王者であり、世界ランキングは水谷に次ぐ12位(大会当時)の丹羽。14年11月のロシアオープンでは水谷をストレートで破るなど、対水谷の一番手と目されていたが、水谷との決勝を前に明治大の先輩・神に道を阻まれた。

神との準決勝は丹羽のほうにチャンスは多くあっただろう。4ゲーム目は10-8でゲームポイントを握っていたところから逆転され、6ゲーム目も4-1のリードから逆転された。「そこでもっとたたみかければ良かったと思うし、4ゲーム目を取ってれば勝つことができたと思う」と試合後に悔しさを吐露する一方で、「同士討ちだし、攻めるボールが少なく、今回の負けはしかたがない。普段はチキータをしてこないのに、最後にやってきてそれがぼくのイメージにはなかった。そこは神さんの精神力の強さに負けた」と敗戦を認めた。

点数の取り方は明らかに丹羽のほうがクレバーだ。サーブから速攻、チキータからの連続攻撃など、丹羽は少ないラリー回数で得点を重ねる。対して神は何かボールをつなげ、大きなラリーに持ち込んで丹羽に食らいついた。点を取る天才・丹羽をもってしても神の執念を振り切ることはできなかった。

プロフェッショナル聖也

健太を下して、10年ぶりの表彰台

MEN'S SINGLES
3位

岸川聖也
[ファースト・千葉]

QUARTER-FINAL

4	VS	2
岸川聖也		松平健太
ファースト		JTB
9-11		11-9
5-11		11-9
11-12		12-10
11-11		11-8
8-12		10-12



松平健に勝利し、応援団に向かってガッツポーズで応えた

17 歳の高校2年時以来、10年ぶりにシングルの表彰台に上った岸川。前中陣のプレーの安定感、凡ミスの少なさ、巧みなボールコントロールはどれをとっても一流の技だ。特にキレのある動きを見せた準々決勝では松平健に勝利。前陣で一撃必殺のカウンターを狙う松平を中陣のラリー戦に引きずり込んで優位に立った。

「健太戦は満足しています。試合内容も良かったし、0-2から作戦を変更して逆転できた。今後につながる試合です」(岸川)と充実感を漂わせたが、続く準決勝では熱戦が期待されるも、水谷によもやの完敗を喫した。「ノーチャンスでしたね。やりにくいというか、レベルが違いました。全く自分のプレーができなくて、どのゲームも出足で離されてしまった」と敗戦を悔やんだ。

水谷に敗戦後、アリーナ席の観客に駆け寄り、約30分かけてサインや写真撮影に応じた。最後のひとりまで笑顔を絶やさずに対応する岸川聖也は、まさにプロフェッショナルだった。その姿に会場中から惜しめない拍手が送られた。

Kaii YOSHIDA

33歳・孤高の
ペンドラは
まだまだ現役。
見事なカット打ち
で塩野を下す

吉田海偉

[Global Athlete Project・埼玉]

今年度はポーランドリーグに参戦し、プロ生活を続けている吉田。相手をなぎ倒すようなパワープレーは全盛期ほどではないが、6回戦では得意のカット打ちで塩野(東京アート)を打ち抜いた。しかし、続く準々決勝では神の勢いを止められなかった。

「相手の勢いのままにやられた。毎年、ベスト16に入るベンはほくだけ。体力が落ちてきたので、トレーニングも練習内容も変えてやっている。ペンドラはもっと頑張ってもらいたいね。寂しいよ」。吉田は自身の戦型の衰退を危惧した。

QUARTER-FINAL		
4	VS	0
神巧也	11-9	吉田海偉
明治大	11-9	海偉
	11-9	
	11-3	Global Athlete Project

男子シングルス《ベスト8》

MEN'S SINGLES ● QUATER-FINALISTS

精度を上げた両ハンド。
3年前の王者は、
自分の行くべき道を進む
吉村真晴 [愛知工業大・愛知]

プラスチックボールをものともしない突き刺さるような両ハンドで、苦手の平野(明治大)を4回戦で沈め、森田(シチズン)、森本(愛知工業大)を連破。水谷とのラリー戦でもノータッチで打ち抜くなど、スピード勝負では上回っていたが、水谷のブロックに徐々につかまってしまった。

追い詰める展開まで持ち込むが、点数が取れなかった吉村は、「すごく研究されていた感じがある。水谷さんは以前と違って、下がってもすぐ前に来る。以前より両ハンドが強くなっている」と水谷との差を体感した。「ドイツに行ってからプレースタイルを変えた。一発だけではなくて、安定感を上げる」。自分は今よりも強くなれると信じ、元王者は道を見定めて歩き出した。



Maharu YOSHIMURA



QUARTER-FINAL		
4	VS	1
水谷隼	13-11	吉村真晴
beacon LAB	11-4	真晴
	11-8	
	10-12	愛知工業大
	11-7	



Kenta MATSUDAIRA

健太、
無念の失速。
全日本の頂点は
近くて遠い

松平健太

[JTB・東京]

毎年優勝候補に挙げられながらも、その頂点にたどり着けない松平。準々決勝で岸川からリードを奪ったが、逆転負けを喫し、肩を落とした。

「3ゲーム目からレシーブで点数が取れなくなった。試合を決めるのは結局サービス。今日は岸川さんのサービスがぼくよりも良かった。攻撃のコース取りも競った場面でストレートを狙えないといけない」(松平)

大会後、世界選手権蘇州大会への代表に選出された松平。ベスト8に入った13年パリ大会から2年、世界の舞台で彼のベストゲームをまた見たい。

絶好調男に落とし穴 まさかの体調不良で 丹羽戦を棄権

吉田雅己 [愛知工業大・愛知]

強い体幹と丁寧でそのつのない吉田の緻密な卓球は、「穴がない」という言葉が似合う。昨年12月の国内選考会で優勝して世界選手権蘇州大会の切符をすでに手中に収めていただけに、今大会の活躍が期待されていたが、準々決勝はインフルエンザによる体調不良で棄権という幕切れとなった。

「今までで一番調子が良い状態で、上に行ける自信がすごくあったので悔しいです。ぼくと丹羽の試合を楽しみにしてくれた人もいたので、申し訳ない」。思わぬ落とし穴に吉田は足をすくわれた。



← 前日まで絶好調だった吉田だが、鬼頭監督(左)の判断で無念の棄権

Masaki YOSHIDA



大島のパワフルなフォアハンドが次々と決まり、一気にゲームカウント0-3、誰もが大島の勝利を疑わなかったが、神がここから驚異の粘りを見せる。開き直ったかのようなリスクのあるカウンターを叩き込み、中陣からは全力のフルスイングで応酬した。まるでドラマのような大逆転勝ちを収め、神はコートに倒れ込んだ。



0-3からのドラマ 神のフルスイングが大島を壊す



ROUND-6
4 VS 3
神 巧也 明治大
大島 祐哉 早稲田大

←「大学生になってから勝ったことがない」という大島に逆転勝ち。何度もガッツポーズをして、ベンチに戻った神。右はベンチに入った川口コーチ

MEN'S SINGLES ● ROUND-6

男子シングルス・6回戦《ベスト8決定》



↓大会1カ月前のグランドファイナルでフルゲームの接戦となった両者の再戦は、水谷が貫禄を見せた。「最後はやることなくなくなってしまった」(森園)

ROUND-6
4 VS 1
水谷 隼 beason LAB
森園 政崇 明治大



↑序盤、吉村のチキータからの連打につかまり、ベースを握れなかった森本。後半からロングサーブを多用したが、戦術変更が少し遅かったか。「1ゲーム目から吉村の気迫がすごかった」(森本)

ROUND-6
4 VS 1
吉村 真晴 愛知工業大
森本 耕平 協和発酵キリン



速攻・丹羽と
ラリー・藤本
天才サウスポーの
ぶつかり合い

ROUND-6
4 VS 2
丹羽 孝希 明治大
藤本 海統 日鉄住金物流

8-11
11-5
11-13
12-10
11-9
11-6

▶ 丹羽の速攻プレーと藤本の広角に攻める大きなラリーの激突は見応えのある好勝負となった。藤本の後陣からグッと伸びるバックドライブでの逆襲は丹羽を詰ませた。「とにかく打球点では勝てないので緩急や回転の変化をつけた。でもそれだけでは勝てない。相手は立て直すのがうまかった」(藤本)



ROUND-6
4 VS 2
松平 健太 JTB
上田 仁 協和発酵キリン

11-7
12-10
6-11
10-12
11-9
13-11

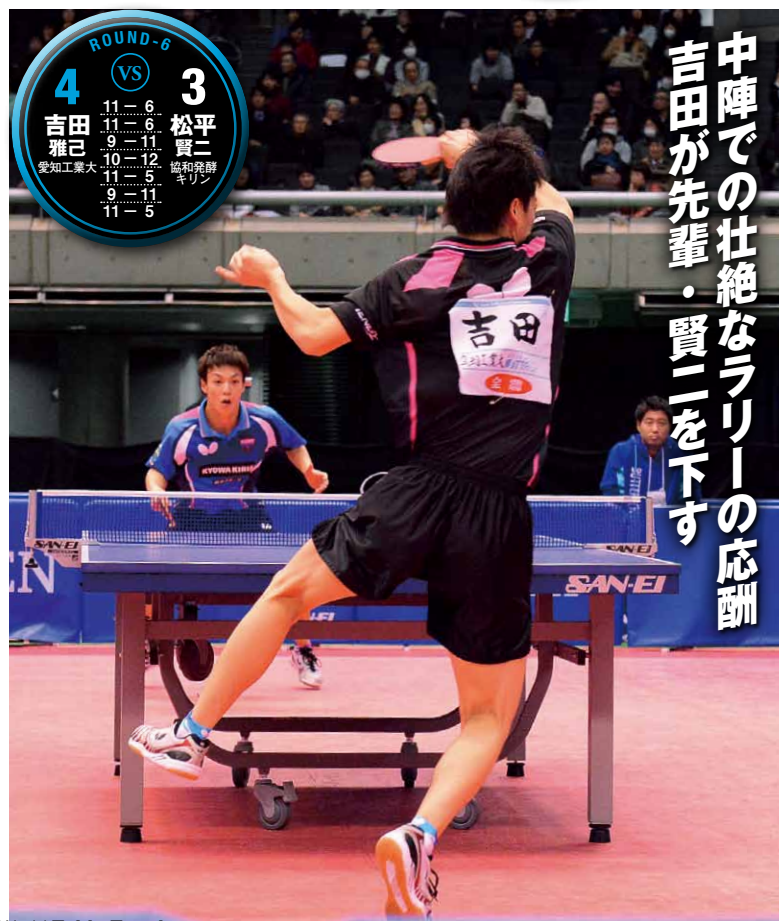
↑ 同世代のライバル同士の戦いになり、上田が松平を追い詰めるも、後半はかわされた。「2ゲーム目をリードしてたのに落としてしまった。序盤で取れていれば変わっていたかも」(上田)



ROUND-6
4 VS 2
吉田 海偉 Global Athlete Project
塩野 真人 東京アート

7-11
11-9
9-11
11-6
11-9
11-4

↑ カットと攻撃が冴えていた塩野が優位に試合を運ぶも、4ゲーム目から吉田がパワフルに攻め立てる。5ゲーム目の9-9で浮いたストップに対し、塩野がバックハンドミス。これが響いた



中陣での壮絶なラリーの応酬
吉田が先輩・松平を下す

ROUND-6
4 VS 3
吉田 雅己 愛知工業大
松平 賢二 協和発酵キリン

11-6
11-6
9-11
10-12
11-5
9-11
11-5



ROUND-6
4 VS 1
岸川 聖也 ファースト
軽部 隆介 シチズン

11-8
11-9
7-11
11-8
12-10

◀ 吉田が手堅いバックを中心にラリーを組み立て、青森山田高時代の先輩・松平のフルスイングを封じる。松平は3ゲーム目からレシーブを攻撃的に攻めて勝機を見出す。接戦となったが最終ゲームで一気に突き放した吉田に軍配が上がった

↑ 打っても抜けない岸川を相手にミート打ちや前後への揺さぶりをかけた軽部。点数は競ったが、後半の1本が遠かった。「最後の1本は岸川さんは違うプレーをやってくる」(軽部)



森本耕平
[協和発酵キリン・東京]

快足フットワークからのドライブ連打でランク入り。「負け試合だった田添くん(健汰/専修大)に勝って、高木和さん(東京アート)にも勝って良かったけど、もうひとつ上に行きたい」

塩野真人

[東京アート・東京]

カットだけでなく、隙あればフォアドライブで打ち込むスタイルに変化している塩野。カット打ちのうまい酒井(EA/帝京)を下してランク入り



森蘭政崇

[明治大・東京]

王者・水谷に敗れた森蘭は試合後に「サーブの球種が少ないし、チキータだけでなく勝負所で使える自分の技術がほしい。今はまだ自分の卓球がわからない」と反省しきり

MEN'S SINGLES ● BEST 16

男子シングルス《ベスト16》



大島祐哉 [早稲田大・東京]

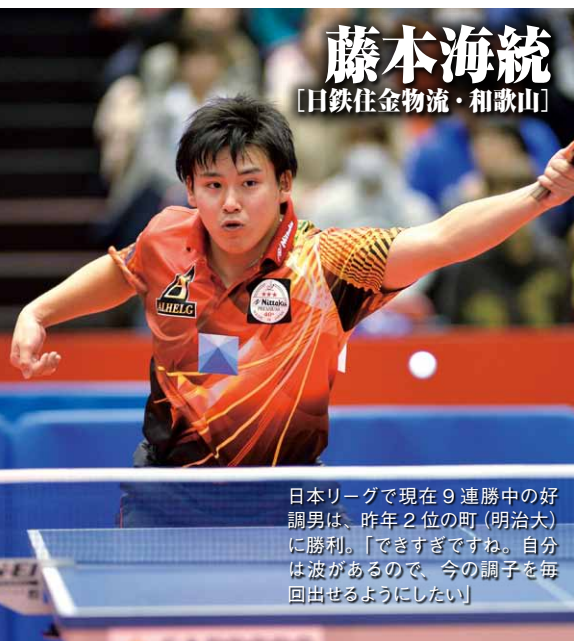
急成長中の大島は村松(EA/帝京)のカットを打ち抜いた。続く神戦では逆転負けし、「ぼくのレシーブがチキータしかないというあまさが逆転負けを生んでしまった原因。まだまだ経験や心の部分で足りないところはたくさんある」と自らを叱咤(した)した



14年度はフランスリーグのアンジェで修行をし、全日本社会人を制したパワーヒッター。体の強さは折り紙付きだが、強引な攻めをかわされた時の対応策が必要か

松平賢二

[協和発酵キリン・東京]



藤本海統
[日鉄住金物流・和歌山]

日本リーグで現在9連勝中の好調男は、昨年2位の町(明治大)に勝利。「できすぎですね。自分は波があるので、今の調子を毎回出せるようにしたい」

上田仁 [協和発酵キリン・東京]

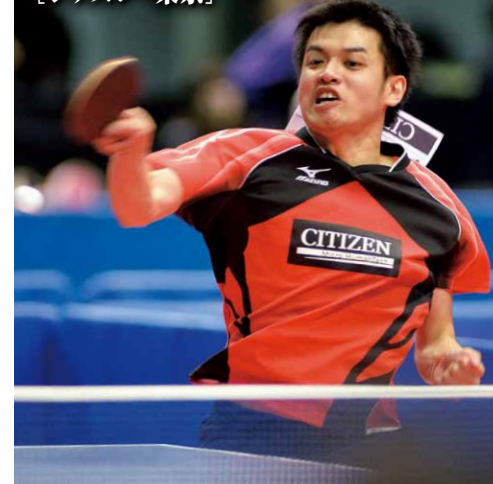
11月に足を怪我した上田が全日本で松平健と好勝負。「不安が大きかった。負けて悔しくないというのはウソになるけど、健太に競って自信になった」



↓ドライブとミートの打ち分けがうまく、ジュニアチャンピオンの及川(青森山田)を一蹴(いっしゅう)。仙台育英高の先輩・岸川には敗れたが、4年ぶりのランク入りを果たした

軽部隆介

[シチズン・東京]



ジャンケンまで 研究した笠原の執念が 絶対王者を敗戦の淵まで 追い詰めた



Round-5
11 4 水谷 隼 (beacon.LAB) VS 3 笠原 弘光 (協和発酵キリン)

笠原は2ゲーム目からミスのない連打で一気に3ゲーム連取。6ゲーム目は6-10から、最終ゲームも8-10から笠原が追いつき、場内をどよめかせた。「最高の準備をしてきたが最後の1本、2本が取れなかった。チャンスはあっただけに悔しい」と笠原。大会前に水谷戦を想定し、選球ジャンケンも研究して、普段水谷と自分が使っていないボールを使用。その執念がスコアにも表れ、大番狂わせは起こらなかったが、ハイレベルな一戦となった

↓ 強烈な両ハンドドライブが炸裂した濱川だったが、岸川がストップからの展開で逆転。「チャンスがあっただけに悔しい。勝負どころで、ぼくの思うよりひとつ上のところをいかれた」(濱川)



Round-5
11 4 岸川 聖也 (ファースト) VS 3 濱川 明史 (日鉄住金物流)

ラスト 決の ド ラ マ

ベスト16入りの選手に贈られる今年のかけた「ラマ」は、今年以上に熱いドラマの決定戦。ラマが繰り広げられた

MEN'S SINGLES ● ROUND-5

男子シングルス・5回戦《ベスト16決定戦》



初 Round-5
4 神 巧也 (明治大) VS 3 坪井 勇磨 (青森山田高)

※スコア内、勝者横の数字は、ランク入りの通算回数

↑ 分の悪かったという坪井(左)に対し、神が粘り強くラリー戦に持ち込んで劇的勝利。「我慢するところは我慢して冷静にやるところは冷静にやれた」(神)。初ランク入りを決めて床に倒れ込んだ後に、起き上がったからも何度も拳(こぶし)を握りしめ、喜びをかみしめた



Round-5
7 4 丹羽 孝希 (明治大) VS 1 大矢 英俊 (東京アート)

気合いで先制した大矢だが、丹羽が要所を抑えた。「思い切ってやりたいプレーをした。丹羽は回転の質がものすごい」(大矢)



Round-5
3 4 上田 仁 (協和発酵キリン) VS 1 松浦 佑紀 (専修大)

松浦(奥)がフォアレシーブを軸に出足は健闘。「レベルの差は感じたが、課題を克服して、もう一度練習に励みたい」(松浦)



Round-5
3 4 軽部 隆介 (シチズン) VS 1 及川 瑞基 (青森山田高)

軽部のスピードに押された及川。「シニアで勝つには、相手を利用する戦術転換や、3球目、4球目強打が必要」



Round-5
2 4 大島 祐哉 (早稲田大) VS 1 村松 雄斗 (EA / 帝京)

第2ゲームから大島(手前)が脆弱をつけながら村松のバックにボールを集める。村松はなかなかカットの変化がつけられず

※ EA=JOCエリートアカデミー



1ゲーム目は時吉(奥)のスピードボールが火を噴き、0-6と一気に飛ばしたが、次第にボールに慣れていった森園が逆転。森園はチキータでの緩いボールで時吉のタイミングを外して苦戦を制した。「チキータの緩急と回転に最後まで慣れなかった。自分の中ではまだ上に行けると思っている。やれるところまでやりたい」(時吉)

4	Round-5	3
初	VS	
森園 政崇		時吉 佑一
明治大		ZEOS
8, 6, -7, -9, 5, -8, 7		



ボールの威力で押ししていく両者のラリーはパワーのぶつかり合い。その中でも、1本2本ある吉村のサービスエース、そして台上の細かい技術が徐々に点差として表れた。最後まで冷静に試合を進めた吉村に軍配。「ラリーは自信があったけど、最後は台上の差がありました。点数が競っても詰めの甘さがあった、決めきれなかった」(森田)

4	Round-5	3
3	VS	
吉村 真晴		森田 侑樹
愛知工業大		シチズン
-11, 4, 12, 6, -8, -9, 5		

8 試合ものフルゲーム。死闘が続いた男子ラン決



4	Round-5	3
2	VS	
塩野 真人		酒井 明日翔
東京アート		EA/帝京
-6, 5, 9, -4, 9, -13, 2		

↑ ループドライブから叩きつけるようなフォアドライブで広角に攻めてきた酒井。塩野は鉄壁のカットとカーブロングでしのぐ。コートが2倍広く見えるようなラリー戦、第6ゲームをジュースで落とした塩野だが、最終ゲームは7-0のスタートダッシュで試合を決めた



4	Round-5	3
8	VS	
松平 健太		張 一博
JTB		東京アート
4, 7, -6, 9, -8, -10, 5		

← 渡辺がパワーで押し気味の展開。6ゲーム目、藤本は4-7から7本連取。最終ゲームは渡辺が0-3でタイムアウト後、強気のプレーで5本連取するも、そこから藤本が再逆転。メンタルの流れが勝敗を決した。「レシーブがダメだった。また精神的に崩れないようにしていきたい」(渡辺)

↑ 出足、松平のバックドライブが火を噴き、張は防戦一方。しかし3ゲーム目4-4から松平が2本連続サービスミス、流れが変わったが、最終ゲーム序盤に松平がサービスエース2本でリードし逃げ切った。「勝敗を分けたのはレシーブ。あと最後に少し守りに入ってしまった。前回成績が悪かったので、厳しい組み合わせは仕方がない。それを乗り越えないと」(張)



4	Round-5	3
初	VS	
藤本 海統		渡辺 裕介
日鉄住金物流		明德義塾高
-8, 8, 11, -8, -9, 7, 8		



4	Round-5	1
4	VS	
森本 耕平		高木和 卓
協和発酵キリン		東京アート
9, 4, -10, 9, 8		

両者譲らずの激しい両ハンドの打撃戦が繰り広げられたが、森本が要所を押さえて競り勝った



4	Round-5	1
7	VS	
松平 賢二		御内 健太郎
協和発酵キリン		シチズン
9, 6, 6, -7, 11		

松平が御内のバックを強打で狙い、御内を防戦一方に。「相手が格上だけに自分が焦ってしまった」(御内)



4	Round-5	0
3	VS	
吉田 雅己		吉村 和弘
愛知工業大		野田学園高
8, 8, 7, 2		

吉田は切れたバックへのロングサービスとフォアの打ち合いで快勝。「苦手意識もあった。悔しい」(吉村)



4	Round-5	1
10	VS	
吉田 海偉		久保田 隆三
Global Athlete Project		シチズン
9, -8, 10, 7, 8		

吉田がロングサービスで久保田を下げる作戦が功を奏す。「3ゲーム目10-9で迷い凡ミスしたのが痛かった」(久保田)



前年度 ファイナリスト 町が初戦敗退

前年準優勝で、昨年末のITTFワールドツアー・グランドファイナルU-21優勝の町(奥)が初戦敗退。藤本のシュートドライブや豪快なバックドライブを浴びた。「ストレートでなかったら、慣れられて負けていたかも。町くんが初戦で台の弾みに合っていないで、そこにつけるスキがあった」(藤本)

Round-4
4 藤本海統 8, 13, 6, 7
日鉄住金物流
VS
0 町飛鳥
明治大



↑前年度の全日学選抜王者・有延が、岸川に善戦。両ハンドのスピードドライブで序盤は主導権を握った

Round-4
4 岸川聖也
ファースト
VS
2 有延大夢
明治大
-6, 8, -11, 8, 11, 6

MEN'S SINGLES ● ROUND-4

男子シングルス・4回戦《スーパーシード初戦》



Round-4
4 藤本海統
日鉄住金物流
VS
3 田添健汰
専修大
-8, 9, -6, -5, 7, 10, 9

→1回戦から勝ち上がった松浦が、田中に対しゲームオール13本の大激戦で逆転勝利。今季で引退を表明していた田中にとっては、この初戦が全日本シングルの最終戦となった



→初のランク入りを目指す田中にとつての初戦、2回戦から勝ち上がった松浦と激しい打ち合いを演じるも及ばず

Round-4
4 松浦佑紀
専修大
-10, 9, -12, -8, 9, 9, 13
VS
3 田中満雄
シチズン

MEN'S SINGLES ● BEST 32

男子シングルス《ベスト32》



優

勝した水谷隼（beacon・L A B）は、まさに「水谷劇場」とも言うべき、打ってよし、守ってよしの活躍で、究極のオールラウンダーに近づいている印象だ。昨年の水谷と大きく変わったのは、攻めの速さ。特に台上で攻める場面がかなり増えており、ややあまく入ったストップや、台から出るか出ないかのボールに対する積極性が見られた。また、戦術の引き出しが多く、決勝でも立ち上がりは相手のペースだった。すぐに戦術を変えて逆転している。そういう切り替えの早さも含め、さらなる成長を感じさせる充実したプレーであった。

準優勝の神巧也（明治大）はもともとフィジカルが強く、フットワークを生かしたパワフルなプレーが、長で今大会も彼の良さが出ていた。特に良かったのが、相手がドライブで持ち上げたボールへのカウンター攻撃。また、気迫を前面に出して自分を勢いに乗せていくのも良い。今後は年間を通して安定した結果が出るように、さらなる成長を期待したい。

準決勝で神に敗れた丹羽孝希（明治大）は、今大会



攻撃面での進化を見せた水谷

勢いを感じられなかった。彼らしい、相手も驚くようなスーパープレーや高速卓球が見られなかったし、格下の選手に対しての思い切りの良さがなかった。世界ランキングも上がり、対戦相手が思い切ったプレーをしてくる中で、どれだけ「負けない卓球」ができるかが今後の課題だろう。神戦は試合内容では負けていなかったが、要所でフォアハンドの決定球をミスしてしまっただのと、お互いに相手を知り尽くしている中で淡々と戦ってしまい、神に主導権を握られてしまった。

3位の岸川聖也（ファースト）は、準々決勝の松平健太（JTB）戦はしつかりコースを読み、巧みな台上テクニクからのカウンターなど、岸川らしい巧さが光った一戦だった。しかしながら、良い勝負が期待された水谷戦では力の差を見せつけられ、ストレートでの敗戦。岸川も若い時から長い間日本チームを支えてきた選手。まだまだ強くなれるはずなので、若い世代に負けない執念を持って頑張ってもらいたい。

ベスト8に終わった松平健太はプレーの調子は悪くなかったが、戦術的に単調になった感がある。岸川戦も得意のストッププレシーブにこだわりすぎて、中盤から攻略されてしまった。思い切つて戦術を変える勇氣、戦術・技術の引き出しが多くないと劣勢の時に強い選手に勝つことは難しい。

その他の注目選手としては、まずは森蘭政崇（明治大）。この1年でバックハンドが成長しており、ダブルスでもすばらしい技術力、集中力を見せた。パートナーを引っ張れる、ガッツ溢れるプレーは若い選手の

松平健はベスト8どまり
世界戦での巻き返しに期待

見本となる選手だ。

この1年で急成長を見せた大島祐哉（早稲田大）は、村松雄斗（JOCエリートアカデミー／帝京）を下し、続く神戦も3-0とリードしたが、だが逆転負け。松平と同じく、劣勢の時に戦術的に単調に

なってしまうのが敗因。今後は戦術の引き出しの幅をさらに広げていくことが望まれる。しかしながら、今の日本選手には稀なフィジカルの強さ、ボールの威力は世界にも通用するものを持っている。

大島に敗れた村松は、大島がドライブ主体に切り替えてから崩れた。カットだけで勝ち続けることは難しいので、世界で勝つためにもサーブミス、レシーブからの早い段階での仕掛けと攻撃が必須となる。

今大会は初のプラスチックボールでの全日本だったが、最終的には驚くような結果ではなかった。ただし、選手からの声にもあるように、来年度は1種類のボールにしたほうが、選手たちがより大会に向けての準備を整えることができ、公平性も保たれると感じる。

全体的には男子のレベルは年々上がってきていると思う。水谷でも上位に行く前に苦戦を強いられる場面があったし、大学生の中から勢いのある選手がどんどん出てきている。16年リオ五輪、20年東京五輪に向けて、明るい材料が揃ってきている。一方で高校生、中学生に若干の物足りなさがある。小学生の張本智和（仙台ジュニアクラブ）は存在感を示したが、少し上の世代に目立つ選手が少ない。ジュニア世代の強化、育成も大きな課題のひとつと言えるだろう。

よりハイレベルになっている男子シングルスでさらなる「攻めの速さ」を身につけた水谷

全日本
男子監督

倉嶋洋介

女子シングルス《決勝》

「本当に苦しかった」
石川佳純、涙で飾る

54年ぶり
3冠



5 大会連続の決勝進出となる石川佳純（全農）と、初めて決勝に勝ち上がった森園美咲（日立化成）が激突した女子シングルス決勝。

ジュニア選手たちが衝撃的な活躍を見せ、ベスト8の平均年齢が18・75歳まで下がる中、決勝は21歳の石川と22歳の森園の同級生対決。実力・経験ともに十分。日本リーグの日立化成でチームメイトであるだけでなく、小学生時代から幾度となく対戦し、手の内を知り尽くしている。

過去の対戦成績は、昨年11月のロシアオープンでは石川が4-0のストレートで勝利するなど、石川が圧倒。森園の勝利は11年山口国体・成年女子準々決勝での1試合を数えるのみだ。しかし、どんな選手にとっても、「勝って当たり前」の勝負ほど難しいものはない。

この決勝、「バックへの攻撃では打ち抜けない」と読んだ森園の作戦は、石川のフォア攻めだった。特に2ゲーム目は石川のバックサイドを突いてから、すばやい回り込みでキレのあるシュートドライブを連発。石川のフォアサイドを何本も打ち抜き、11-2で奪取してゲームカウント1-1に並ぶ。

しかし、石川はあわてない。1-0から3ゲーム連取され、大苦戦した準決勝の前田（希望が丘高）戦が生きた。「準決勝を良い教訓にしました。『守りに入らない』という気持ちの部分を意識して、自分のペースで戦おうと思った。準決勝より早い段階で修正できた」（石川）。

石川は3ゲーム目以降、バックサイドへのロングサーブを有効に使い、さら



決勝ではバックサイドを突かれても、さらに厳しく森蘭のバックへ返球。進化したバックハンドで、森蘭の回り込み攻撃を封じた



ベンチに入った陳莉莉コーチが、優勝を決めた石川を抱き締めた。時にやさしく、時に叱咤(しった)しながら、石川のプレーを支えた

FINAL

4 VS 1

石川 11-7 森蘭
佳純 2-11 8
全集 11-5 日立化成
11-7

優勝の瞬間、涙があふれた石川。「すごく苦しかったという思いの後に、最後まで粘り強く戦って良かったと思いました」(石川)

にフォア前へのサーブも絶妙にコントロールして、森蘭に待ちを絞らせない。「3ゲーム目からロングサーブを主体に出されて、私はバックが表ソフトなので押されてしまった」(森蘭)。石川得意の「表ソフト殺し」の戦術が、決勝でも効果を発揮した。

5ゲーム目の0-3でタイムアウトを取った森蘭に対し、石川は決勝でタイムアウトを取っていない。要所の3ゲーム目に10-5から10-8まで挽回されても、5ゲーム目の中盤で7-3から7-6とされ、ベンチの陳莉莉コーチからタイムアウトの意思を確認されても、首を縦に振らなかった。それだけ、自分のペースで戦えている自信があったのだろう。

5ゲーム目の7-6から3点連取し、チャンピオンシップポイントを握った石川。10-7でフォア前へのサーブを森蘭に軽く払わせ、バックハンドのウイニングショットを森蘭のバックサイドに突き刺した。

優勝の瞬間、あふれる涙とともに顔を覆った石川。歓喜よりも安堵。「苦しかったな」というのが偽らざる心境だった。

1960年度大会の山泉(現姓・伊藤)和子、82・83年度大会の齋藤清に続く史上3人目の3冠達成。「今大会、一度も負けなかったのはすごい自信になりました」(石川)。3種目で計17戦無敗の成績を残した石川佳純は、出場選手でただひとり敗北を味わうことなく、全日本の戦いを終えた。

WOMEN'S SINGLES
優勝

石川佳純
[全農・山口]

はねのけた若手の挑戦 女王は最後に 笑う



WOMEN'S SINGLES • WINNER

Kasumi ISHIKAWA

決 勝で勝利した瞬間、コートサイドに「ウウツ」と絞り出すような嗚咽が響いた。テレビの放送では聞き取れないような、心の叫び。優勝者インタビューで心境を尋ねられた石川は、「フーッ」と長く息を吐いた後、「本当に苦しい一週間でした」と言葉が続けた。

優勝候補の双壁だった福原愛(ANA)が大会を欠場。石川は誰からも追われる立場になった。しかも決勝を除けば、対戦した選手は中学生の加藤(EA)と伊藤(スターツSC)を含め、全員が年下。優勝会見では「ここまで向かってこられたのは初めて。『え、こんな？』と思っただくらい」と率直な胸の内を明かしている。女子複の優勝会見では「若い選手たちは……」と言いかけて、平野早矢香に「佳純も若いじゃん!」と笑われるひと幕も。21歳の石川がすでにベテラン扱いされるほど、世代交代の波は激しい。

それでも、石川が受け身に回ることにはなかった。むしろ出場する試合のすべてを糧にして、どんな欲に成長していった。「強い選手と戦わなければ成長できないわけではない」と石川は言い切る。「強い選手とやる時は誰だって思い切って戦える。普段は勝っている選手、勝てるかなと思う選手と戦うほうが厳しい。今回、そういう中で勝てたことは、格上の選手と戦う時にも自信になります」(石川)。

準決勝の前田戦でゲームカウント1-3まで追い詰められても、負けることは全く考えなかったという。まさに女王のメンタリティ。最終ゲーム9-9というシビれる場面では、バックへの深く切れ

SEMI-FINAL VS

4	11-9	3
石川佳純	8-11	前田美優
全農	7-11	希望が丘高
	11-13	
	11-3	
	11-6	
	11-9	



1-3のピンチ 見せたぜ 女王の底力! 日本代表



◀↑準決勝で前田をゲームカウント1-3から逆転。「1-3になって、ここから勝負だと思えた」(石川)。緊張感から解放され、試合後は涙(左写真)

KASUMI ISHIKAWA WOMEN'S SINGLES SCORE
[石川佳純・女子シングルのスコア]

● 4回戦	8、9、9、7	安藤みなみ (慶誠高)
● 5回戦	11、8、-12、11、9	宋恵佳 (中国電力)
● 6回戦	-8、10、6、-8、6、4	加藤美優 (EA)
● 準々決勝	6、5、3、6	伊藤美誠 (スターツSC)
● 準決勝	9、-8、-7、-11、3、6、9	前田美優 (希望が丘高)
● 決勝	7、-2、8、5、7	森蘭美咲 (日立化成)



この気迫
この闘志!

「向かってこられるのは光栄なこと。受けて立つつもりも良いプレーがしたい」という石川。6回戦の加藤戦も気合い満点



3冠スマイル!

女子では54年ぶりの3冠。優勝会見ではカメラマンのリクエストに答え、晴れやかな「3冠スマイル」

たサーブから前田のミドルを攻める戦術で、最後の2本をもぎ取った。
ベンチで石川を支えた陳莉莉コーチは「守備的な技術や中陣でのプレーも良くなって、技術力に自信がついてきた。自分が持っているものと試合で出せるもの、どちらも厚みが出てきましたね」とその成長に目を細めた。
全日本を迎えるたび、石川佳純は成長する。真冬の大舞台が彼女を強くする。
「去年の優勝とはまた違った、大きな一歩を踏み出した」という石川。その一歩で、リオデジャネイロ五輪前年の「勝負の年」は最高のスタートを切った。さあ、目の前にそびえるのは、中国選手が固める世界の頂だ。

Misaki MORIZONO



森蘭美咲

[日立化成・茨城]



プラボールも何のその 唸りをあげた豪腕!

ボールがセルロイドからプラスチックになったとしても、森蘭美咲のフォア強打の威力は落ちない。大会の開幕直前にワールドチームカップに出場する強行日程も、鍛え抜かれたフットワークで駆け抜けた。

6回戦での対戦が予想された福原(ANA)が欠場し、4回戦で池上(東京富士大)、6回戦で牛嶋(正智深谷高)、準決勝で石垣(日本生命)と得意なカットマンとの対戦が続いた。苦戦した準々決勝の松平(ミキハウス)戦では、相手のマッチポイントの場面でサーブミスに助けられた。

森蘭には追い風が吹いていた。そして、追い風を受けられるのは、それに相応しい実力を持った者だけだ。石垣戦ではバック表ソフトのボールをうまく使い、チャンスボールは必殺のバッククロスフォア強打。石垣に「自分が違うパターンで攻撃を仕掛けても、すぐに対応してくる。強いと感じた」と言わしめた。

決勝ではフォア攻めの作戦が功を奏し、2ゲーム目は11-2の大差で奪取。しかし、3ゲーム目以降は、バックサイドに来る石川のロングサーブに押され、速攻で先手を奪っても、中陣からの回転量の多いボールに対してオーバーミスが出た。

「力を出し切れなかった。佳純ちゃんは今私の中で大きな存在で、意識しすぎていたかもしれない(森蘭)。石垣戦での自信満々のプレーに比べ、決勝での森蘭は出足からどこかプレーに迷いがあった。圧倒的に分が悪い相手に対し、それを逆手に取って、「失うものはない」という積極的な戦い方ができなかった。

技術面で見れば、台から距離を取る石川

でんか ほうとう
伝家の宝刀
バッククロスのフォア強打!



◀ 準決勝の石垣戦は、得意とするカット型に対して完璧なプレー。今大会のベンチには、小学生時代から森園を知る羽佳純子さん（元日本代表）が入った（上写真）

SEMI-FINAL

4 VS 0

森園 美咲 (日立化成) 11-7, 11-5, 11-8, 11-4

石垣 優香 (日本生命)

敗戦の崖っぷちから生還!

松平のしゃがみ込みサービスに苦しみ、5ゲーム目にはマッチポイントも奪われた準々決勝。松平のサービスミスに救われ、からも逆転勝利をおさめた



QUARTER-FINAL

4 VS 3

森園 美咲 (日立化成) 7-11, 11-7, 7-11, 10-12, 13-11, 11-6, 11-9

松平 志穂 (ミキハウス)

MISAKI MORIZONO WOMEN'S SINGLES SCORE

[森園美咲・女子シングルのスコア]

● 4回戦	8、4、4、10	池上玲子 (東京富士大)
● 5回戦	8、5、6、9	河村菜依 (アスモ)
● 6回戦	5、5、4、4	牛嶋星羅 (正智深谷高)
● 準々決勝	-7、7、-7、-10、11、6、9	松平志穂 (ミキハウス)
● 準決勝	7、5、8、4	石垣優香 (日本生命)
● 決勝	-7、2、-8、-5、-7	石川佳純 (全農)



◀ まさに薄氷（はくひょう）を踏む勝利。厳しい戦いを制し、試合後には思わず涙

の挑戦はまだまだこれからだ。

「森園家は卓球のセンスがないから、我慢強さとか、コツコツやるのが良いところ（森園）。そうして培った攻撃卓球が彼女の持ち味だが、「ど根性卓球」の枠にその才能を押し込めてしまうのは、あまりにも惜しい。フォアはスピードだけではなく回転を生かし、バックの表ソフト面ではナツクルボールやストップなど多彩な変化を使えば、戦術の幅はもっと広がる。

プレススタイルを変えても、幼い頃から磨き上げたフットワークとフォア強打は、決して彼女を裏切らないはずだ。森園美咲の挑戦はまだまだこれからだ。

に対し、バック表ソフトの変化で揺さぶりをかけたかった。打球点を落とさずに仕留める、森園のフォア連打のスピードはワールドクラス。一方で、プレーが硬く、単調に見えてしまう時もある。



決勝では受け身に回った感もある森園。「自分のほうが実力的には下なのに思い切りいけなかったのは残念」

Miyu MAEDA

WOMEN'S
SINGLES
3位

前田美優

[希望が丘高・福岡]

高校最後の 大舞台

「左キラー」の
天才左腕が燃えた



↓「自分の思った通りの試合運びができた」という準々決勝の平野美戦。打たせて取る作戦で勝負した



QUARTER-FINAL	
4	1
前田美優	平野美宇
希望が丘高	EA
11-4	6-11
11-11	8-7
11-11	7-3

「松井先生が最後のベンチだったので、大会前から良い結果を出したいと思っていました」（前田）。意気を感じた天才ほど強いものはない。かつて注目を集めた全日本の舞台で、その才能が鮮やかに開花した。

「プラボールはむしろプラスですね」（希望が丘高・松井清美監督）。最後は石川の巧みな戦術に逆転を許したものの、女子シングルスで随一の好ゲームと言える内容だった。

成19年度大会で小学5年生ながら4回戦に進み、「天才少女」として注目された前田美優。一昨年の大会で混合ダブルスを制したものの、女子シングルスでは成績が低迷していたが、高校最後の全日本で大ブレイク。全日学3連覇の丹羽（淑徳大）、前回3位の若宮（日本生命）、そして平野美（EA）を連破する快進撃を見せた。圧巻は女王・石川との準決勝。バック対バックで一歩も引けを取らず、回転量のある石川のバックドライブに早い打球点のバックハンドで対応。機を見て石川のフォアをバックハンドで突き、ゲームカウント3-1でリードを奪う。「リードしても余計なことは考えないようにして戦った」という無欲のプレー。そして大会を通じて、バック表ソフトの連打は非常に安定していた。「プラボールになって、バックもフォアも緩急が出せるようになった。前田にとってプラボールはむしろプラスです」（希望が丘高・松井清美監督）。



← 準々決勝で勝利し、初のメダルが確定。試合後に日本生命の竹谷コーチと笑顔

WOMEN'S SINGLES ●
SEMI-FINALIST
Yuka
ISHIGAKI

攻

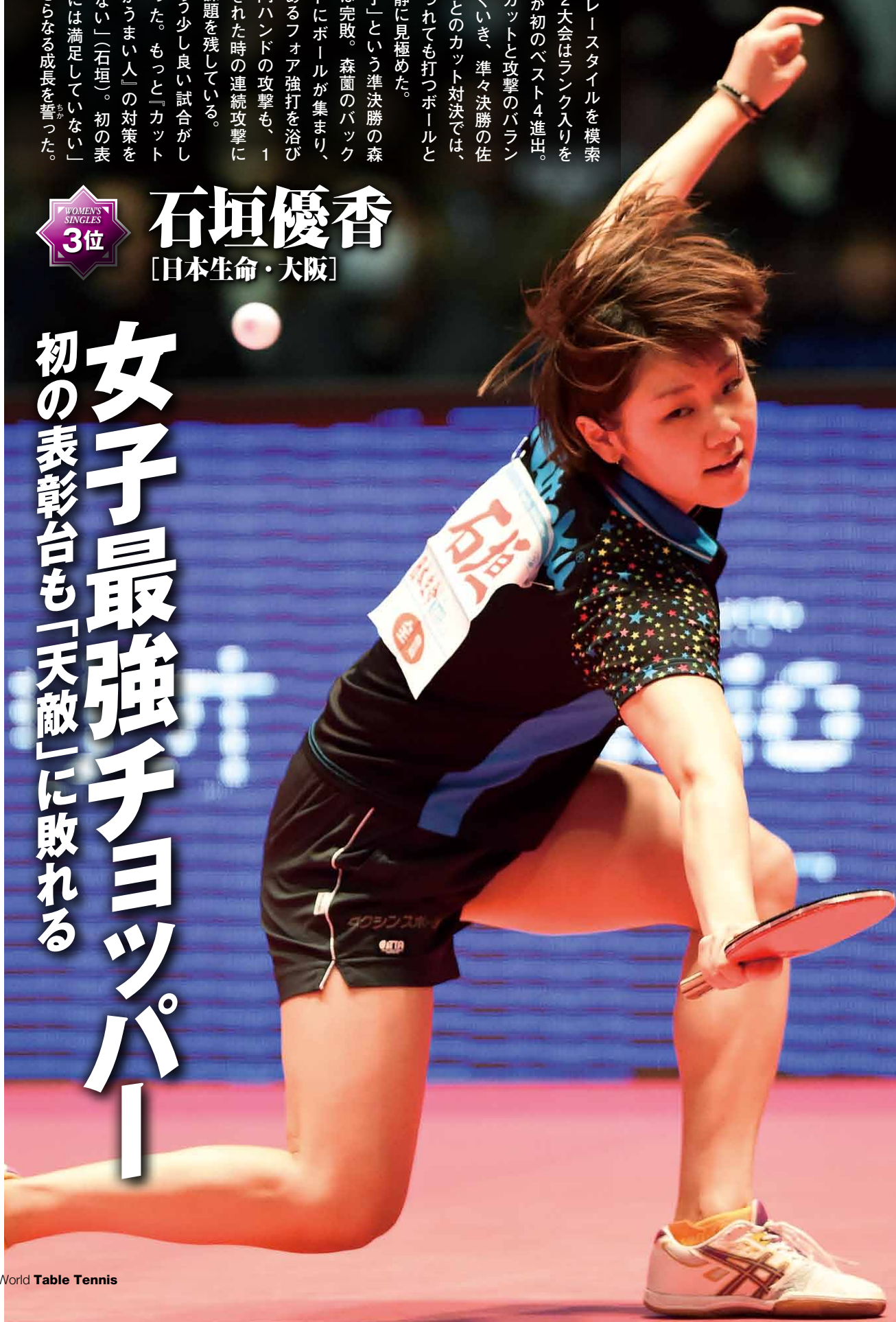
撃的なプレースタイルを模索し、この2大会はランク入りを逃していた石垣が初のベスト4進出。全日本に向けてカットと攻撃のバランスの調整がうまくいき、準々決勝の佐藤（札幌大谷高）とのカット対決では、促進ルールにもつれても打つボールと守るボールを冷静に見極めた。

「分が悪い相手」という準決勝の森園戦は完敗。森園のバックサイドにボールが集まり、威力あるフォア強打を浴びた。両ハンドの攻撃も、1球返された時の連続攻撃にまだ課題を残している。「もう少し良い試合がしたかった。もっと『カット打ちがうまい人』の対策を立てないといけない」（石垣）。初の表彰台にも「内容には満足していない」と語り、今後のさらなる成長を誓った。

WOMEN'S SINGLES
3位

石垣優香
[日本生命・大阪]

女子最強チヨッパ
初の表彰台も「天敵」に敗れる



Miu HIRANO



優勝候補の 一角を崩した! 「当たれば入る」 驚異の ボールタッチ 平野美宇

[JOC エリートアカデミー・東京]

6回戦で松澤(日立化成)を破った後、会見で勝因を聞かれ、長く考え抜いた末に「わかんないです……」とうつむきながら答えた平野。しかし、コートの上では実に堂々たるプレーぶり。抜群のボディバランスとボールタッチで、正確な両ハンドドライブを打ち込み、サービスもこれまでの巻き込みサービスに、より多彩な球種が加わった。

来年度大会では、同い年の伊藤、早田らとともに、中学3年にして優勝候補のひとりになるだろう。



女子シングルス《ベスト8》

WOMEN'S SINGLES • QUATER-FINALISTS

すでに漂う風格
強打を軽くいなして
突き刺す両ハンド

伊藤美誠 [スターツ SC・大阪]

国際大会で積んだ経験に加え、ジュニアで接戦の連続を制し、タイトルを獲得したことが大きな自信になったか。これまでは勝負所で打ち急ぐ場面も見られた伊藤だが、社会人選手に対してもバック表ソフトの堅い守りを軸に、冷静なプレーを見せた。

しかし、準々決勝の石川戦では、強力な石川の攻撃の前に防戦一方の展開。「他の左利きの選手に効くパターンが石川さんには効かない。ラリーにすれば良い勝負はできるけど、そこまでもっていけなかった」(伊藤)。これからは、本来の武器であるフォア強打を生かすため、サービスからの3球目攻撃の精度と威力も高めていきたい。

石川との対戦が目標だった伊藤。女王の強さを体感した



Mima ITO



QUATER-FINAL		
4	VS	0
石川	11-6	伊藤
佳純	11-5	美誠
全農	11-3	スターツ
	11-6	SC



Hitomi SATO

やくしん
躍進の大型チョッパー
バックドライブで
魅せたセンス
佐藤 瞳 [札幌大谷高・北海道]

カット打ちのうまい市川（日立化成）を4回戦で下し、そのままベスト8へ躍進した期待のチョッパー。高い安定性を誇るバック粒高のカットに加え、反転しての裏ソフトでのバックドライブにセンスを感じさせた。

準々決勝の石垣戦は昨年12月の世界代表選考会では3-2で勝利していたが、「フォアで打てないボールまで打ちに行ってしまった」と語ったとおり、やや勝負を焦ったか。「どんな場面でも自信を持ってプレーできるようにしたい」と試合後に語った。

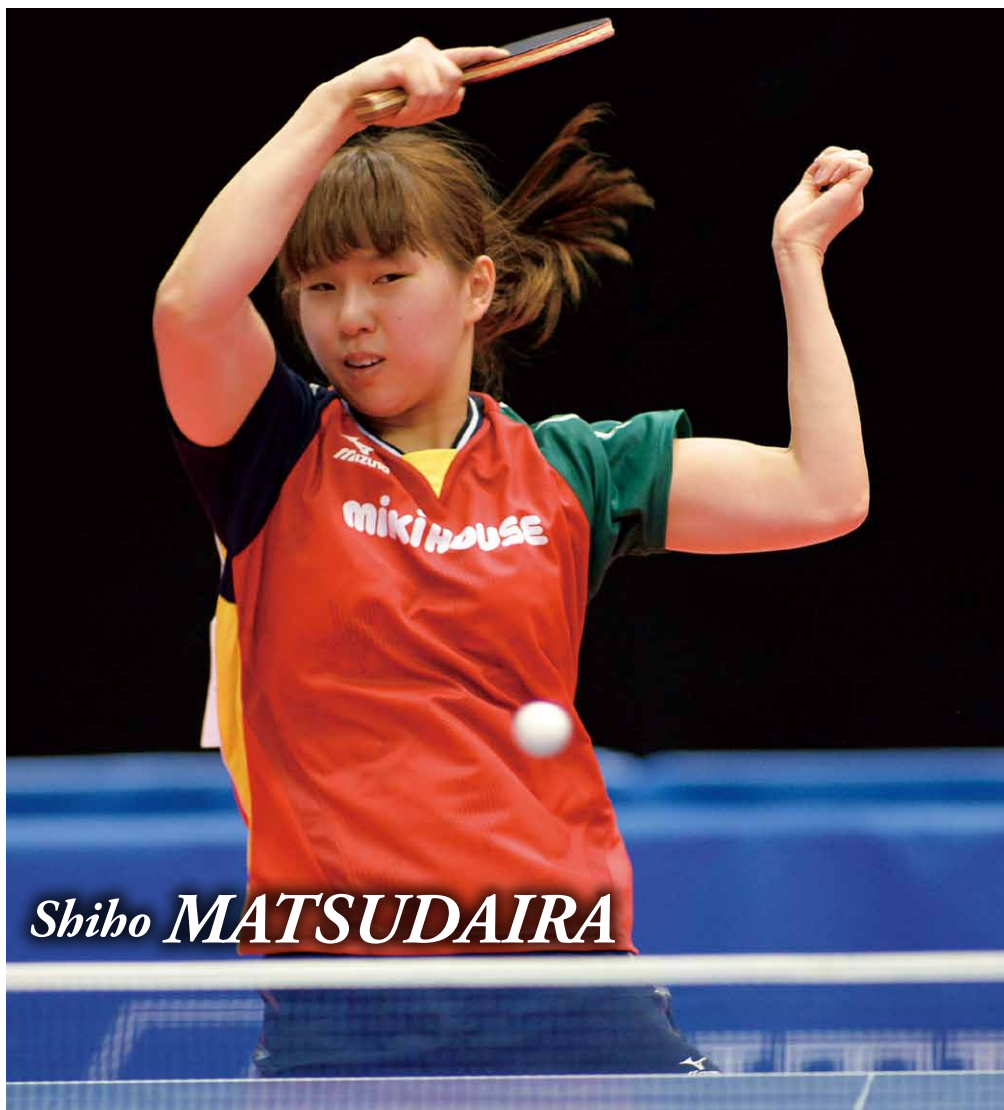


QUARTER-FINAL	
4	2
石垣 優香	佐藤 瞳
日本生命	札幌大谷高
11-8	11-6
8-11	14-12
8-11	11-6

変化卓球から
「本格派」へ
ラリー戦で
ねじ伏せる！
松平志穂
[ミキハウス・大阪]

「5回戦の壁」の前に4大会連続で涙をのんできたが、今大会は一気にベスト8入り。これまではしゃがみ込みサービスからの意外性あるプレーが持ち味で、その反面ラリーが長引くと不利になるスタイルだったが、6回戦ではラリー戦に強い田代を撃破するなど、「本格派」への脱皮を果たした。

準々決勝の森園戦は、5ゲーム目に11-10のマッチポイントで痛恨のサービスミス。「この1本がほしいという気持ちが強すぎた。1本の重みが改めてわかりました」と涙をうかべながらコメントした。



Shiho MATSUDAIRA



6回戦のサプライズ ミウ、正面突破で 松澤を寄り切る!

ROUND-6		
4	VS	3
平野 美宇 EA		松澤 茉莉奈 日立化成
7-11		11-7
11-7		7-11
11-8		8-11
11-6		6-11
8-11		11-5



優勝候補のひとり、松澤を中学2年生の平野が破る大金星。一進一退の攻防の中で迎えた最終ゲーム、やや硬さが見え、レシーブや3球目攻撃にミスが出た松澤に対し、平野は最後まで平常心のプレーを披露。両ハンドでの巧みなストレートへの攻撃を見せて4-1、7-2と大きくリードを広げ、11-5で押し切った。試合後にはベンチの劉潔^{リウ・ジエ}コーチと笑顔で抱き合った。

WOMEN'S SINGLES • ROUND-6

女子シングルス・6回戦《ベスト8決定》



完璧!バッククロスへ ウイニングショット!

↑バック表ソフトの攻守に、フォアの強打を織り交ぜた伊藤が試合を優位に展開。マッチポイントではバッククロスへ強烈なフォア強打で打ち抜いた。「ワールドツアーと一緒に回っていたけど、試合をやるのは初めて。攻撃力があって、うまく対応できなかった」(酒井)

ROUND-6		
4	VS	1
伊藤 美誠 スターズ SC		酒井 春香 ミキハウス
11-4		4-11
11-9		9-11
11-8		8-11
11-13		13-11
11-9		9-11

↑「同じタイプで、早いラリーが好きなので、ゆっくりなボールを使った」という松平。バック対バックを中心としたラリー戦の中で、守りながらも攻めるプレーを見せ、田代を下した

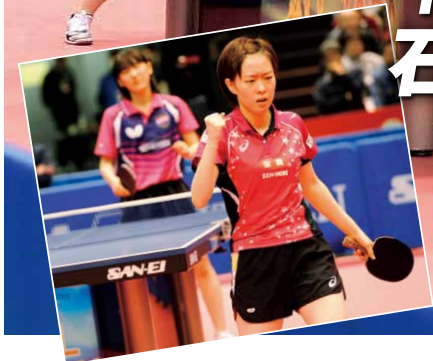
ROUND-6		
4	VS	2
松平 志穂 ミキハウス		田代 早紀 日本生命
11-6		6-11
13-11		11-6
6-11		11-9
10-12		12-10
11-9		9-11



げこくじょう
**下克上は許さず！
石川、鬼神のプレー**

石川も気迫を前面に出して戦った好ゲーム。加藤がフォアのしゃがみ込みサービスから先手を取りにいったが、石川は両ハンドで粘り強く対応し、ミスを誘った

ROUND-6
4 VS 2
石川 佳純 全農
8-11
12-10
11-6
8-11
11-6
11-4
加藤 美優 EA



↓「昨年のフィンランドオープンでカットの選手に負けて自信はなかった」という山本。キレのあるフォア強打で石垣と接戦を演じたが、「この一本」の場面でミスが出た



ROUND-6
4 VS 2
石垣 優香 日本生命
11-6
10-12
8-11
11-9
11-9
山本 怜 中央大
11-9
11-9

↓森園がループドライブからバッククロスフォア強打を次々に決めた。「高校生とは回転量や戦術が全然違った。この全日本に懸けているのすごく感じた」と牛嶋も脱帽



カットキラー 森園に油断なし!!

ROUND-6
4 VS 0
森園 美咲 日立化成
11-5
11-5
11-4
11-4
牛嶋 星羅 正智深谷高
11-5
11-4
11-4



ROUND-6
4 VS 1
佐藤 瞳 札幌大谷高
12-10
11-6
11-8
8-11
11-7
松本 優希 ミキハウス
11-6
11-8
11-7

↑ループドライブとツッツキで佐藤を動かした松本だが、佐藤は崩れず。「もっとストップで前後に動かして、スマッシュを使うべきだった」(松本)



ROUND-6
4 VS 0
前田 美優 希望が丘高
12-10
12-10
11-8
11-9
若宮 三紗子 日本生命
12-10
12-10
11-8
11-9

平成26年度
全日本
卓球選手権大会
**実力者・若宮、
同郷の後輩にまさかの完敗**

↑同じ香川県高瀬町の出身で、同じ左腕のバック表攻撃型である後輩・前田に完敗した若宮。「もう少しピッチが早いかなと思ってたけど、思ったよりもゆっくり来てリズムが合わなかった」(若宮)



牛嶋星羅

[正智深谷高・埼玉]

↑福原が棄権したブロックでチャンスを生かした。高い守備力がブラボーで生きたが、6回戦の森菌戦は完敗

WOMEN'S SINGLES ● BEST 16

女子シングルス《ベスト16》

↓これまで4回戦の壁を突破できなかった山本。その4回戦で第2シードの森(昇陽高)を撃破して勢いに乗った。打球点の早さ、攻守の判断の早さが光っていた

山本怜

[中央大・東京]



加藤美優

[JOC エリートアカデミー・東京]

↑6回戦での女王・石川との両ハンドの打ち合いは見応え十分。リスクを恐れず、石川のフォアサイドを積極的に攻めた。中学1年から3年連続でのランク入りは快挙だ



松澤茉莉奈

[日立化成・茨城]

↑優勝候補の一角と見られたパワーヒッターは、平野美にまさかの苦杯。最終ゲームまでもつれたが、痛いところでレシーブミスが出て序盤で離された。ここからの奮起に期待



田代早紀

[日本生命・大阪]

←昨年は世界代表も経験。さらなる飛躍を狙ったが、松平のサービスをうまくレシーブできず、後手に回る展開に。「表彰台を狙っていたので悔しいですが、これが今の自分の実力だと思います」(田代)



酒井春香

[ミキハウス・大阪]

↑昨年はワールドツアーに積極的に参戦。両ハンドドライブは威力と安定性を兼備している。ランク決定戦で前回ベスト8の加藤(県立岐阜商業高)を破った

松本優希

[ミキハウス・大阪]

→ループドライブをうまく使う緩急自在のプレーで、4回戦では期待のホープ・早田(石田卓球クラブ)に快勝。5回戦で土井(中国電力)を下して初のランク入り



若宮三紗子

[日本生命・大阪]

←前田戦は予想外のストレート負け。「丹羽さん(淑徳大)が上がってくると思っていたので、少し面食らってしまった」と試合後に語った。苦手とするサウスポー対策に課題を残した



4 Round-5 2
初 佐藤 8,-8,6
 隆 -9,8,8
 札幌大谷高 十六銀行

↑ 佐藤がバックドライブで次々に得点。対する根本は佐藤のフォアを徹底的に突き、ツッツキにも変化をつけたが、バックドライブ+フォアスマッシュでしっかり攻めた佐藤がカットマン対決を制した。「カット対策はしてきたが、相手のほうが引き出しが多かった」(根本)



4 Round-5 1
3 松澤 11,-8,
 茉莉奈 6,8,6
 日立化成 ミキハウス

モデルチェンジは道なかば。万全松澤の前に平野沈黙

↑ 公式戦初対戦という実力者対決。松澤(奥)は対策が万全だったか、平野のサービスを完璧にレシーブ、思い切りの良い攻撃を決めて快勝した。チキータを取り入れたり、バックハンドを振るスタイルを模索中という平野。モデルチェンジについては「うまくいっている部分もあれば、まだまだの部分もある」と道なかばだが、「今回出た反省点を受け入れ、次の試合までには改善できるようにがんばりたい」と、敗戦後にも向上心を見せた



4 Round-5 2
5 石垣 8,10,-10,
 優香 8,-9,4
 日本生命 サンリツ

← ループドライブを中心に粘り強く戦った天野だったが、石垣の攻撃力がそれを粉碎(ふんさい)。「粘り切ろうという気持ちでいたが、相手が前よりも攻撃のミスが少なく、その質に対応できず、前半離された」(天野)



4 Round-5 2
5 田代 -7,9,8,
 早紀 3,-9,3
 日本生命 アスモ

↑ 森永はフォア表の異質ラバーを生かした変化で粘り強いラリーを展開したが、田代はしっかり対応しつつ攻撃を決めた。「初めてここまで来れてうれしい半面、このチャンスを生かしたかった」(森永)



4 Round-5 3
初 山本 -6,-6,-6,
 怜 7,10,10,8
 中央大 EA / 大原学園



↑ 戦術転換で会心の逆転勝利、初ランク入りを決めた山本

← 序盤は完全に浜本ペース。しなりのある両ハンドドライブが次々に決まった。しかし4ゲーム目から山本は前陣でのコンパクトプレーを徹底。ラリー戦で優位に立ち、頭脳プレーで逆転勝利。「ラリー中に相手に変化をつけられて、予想外だった時の対応ができなかった」(浜本)



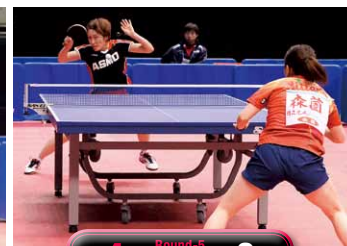
4 Round-5 2
初 酒井 -6,-7,4,
 春香 10,1,9
 ミキハウス 県立坂本商業高

前陣でのラリー戦に強い両者の対決。序盤は加藤の速攻が冴えたが、酒井が粘り強さを発揮して逆転



4 Round-5 0
7 若宮 5,6,6,2
 三紗子 日本生命 中国電力

若宮のコース取りに翻弄された土田。「思い切って行こうと思ったが、いるだけで押されるという感じで、何もできなかった」



4 Round-5 0
5 森 8,5,6,9
 美咲 日立化成 アスモ

緩急をつけた大きなラリーの河村に対し、森が速攻で押し切った。「完敗。1ゲーム目を取れたら波に乗れたが…」(河村)



4 Round-5 2
初 松平 -4,-8,14,
 志穂 7,8,9
 ミキハウス 同志社大

「絶対勝たたいという気持ちと、コースへの対応という技術面で負けていた」と、成本(奥)は四天王寺高時代の後輩・松平に脱帽



ラン決屈指の激戦。 加藤が迷いを断ち切り 渾身のカット攻略

↑6ゲーム目、野中(奥)がカットの変化で加藤のオーバーミスを誘って競り勝つ。最終ゲームは野中が5-1とリードでチェンジエンド後、加藤が迷いを断ち切り、会心のスピードドライブを連発、一気に逆転した。「過去0勝2敗なので、向かっていくつもりでいった。最後の1本を取るのが相手がうまかった。今日できることはやりきれたかな。悔しいですけど」(野中)

ランキングをかけた5回戦＝「ランク決定戦」。女子はフレッシュな顔ぶれがこのラウンドに臨み、8名もの初ランカーが誕生した

WOMEN'S SINGLES ● ROUND-5

女子シングルス・5回戦《ベスト16決定戦》

4 **Round-5** 3
加藤 美優 **VS** 野中 由紀
EA 11、3、-10、8 美崎選手スポーツ専門員

※スコア内、勝者横の数字は、ランク入りの通算回数

※ EA=JOCエリートアカデミー

↓ ラリー戦に強い2人の対決は、互角の展開。コースを読み切り、果敢に攻めた松本(手前)に軍配。「打ち急いでしまった。ラリーで粘れば向こうもミスしてくれたのに、最後はちょっと自分が我慢できなかった」(土井)



↑ジュニア準々決勝では平野が速いラリーで快勝。続く一般での対戦では、芝田が台から距離を取り緩急をつけたが、バックドライブの威力に勝る平野が両手で押し切った。「対策をしてきたけど、向こうもしっかり対策をしてきて、対応しきれなかった。技術もだけど、体力や精神力もつけたい」(芝田)

4 **Round-5** 2
初 平野 美宇 **VS** 芝田 沙季
EA 7、-6、7、-7、7、4 四天王寺高



4 **Round-5** 3
初 松本 優希 **VS** 土井 みなみ
ミキハウス -2、-8、7、8 中国電力



4 **Round-5** 1
初 牛嶋 星羅 **VS** 阿部 愛莉
正智深台高 6、10、-9、6、8 四天王寺高

阿部がフォアのループドライブとバックのストップでチャンスをつかぐが、フォアの強打にミスが出て競り負けた



4 **Round-5** 1
9 石川 佳純 **VS** 宋 恵佳
全農 11、8、-12、11、9 中国電力

3ゲームがジュースになるも要所で石川が締めた。「意外と試合になったが、競った場面で経験の差が出た」(宋)



4 **Round-5** 1
初 伊藤 美誠 **VS** 中島 未希
スターズ SC 7、2、9、-7、7 サンリツ

伊藤がラリー戦でかく乱。「先に振り回してくる中で、変化をつける頭の切り替えの早さもある。見習わないと」(中島)



4 **Round-5** 1
2 前田 美優 **VS** 丹羽 美里
希望が丘高 -8、4、7、6、6 瀨徳大

2ゲーム目から前田がよく攻め一気に勝利。「ブロックが全部オーバーミスし、コントロールできなかった」(丹羽)



4 Round-4 1
山本 9、-9、12、 森
愉 7、6 さくら
中央大 昇陽高



「調子は良いという感じはあったけど、試合の中で自分の良いところが出せなかった」という森。本人は「大丈夫です」と否定したものの、傷めていた右肩の影響もあったか

女子も昨年2位が4回戦敗退 初戦でさくら散る

昨年準優勝で、2014世界卓球の代表にも選抜された森が初戦敗退。青森山田中の1学年先輩である山本に、得意とするフォアの強打を巧みに封じられた。「攻めるところは攻めて、打てないところは打たない」という判断力を意識し、落ち着いてプレーできた(山本)

WOMEN'S SINGLES ● ROUND-4

女子シングルス・4回戦《スーパーシード初戦》



社会人王者・阿部、
初戦突破ならず

4 Round-4 0
土田 阿部
美佳 恵
中国電力 3、7、5、3
サンリツ

◀ 今年度は日本リーグビッグトーナメントと全日本社会人で優勝している阿部だが、昨年に続き初戦敗退。異質スタイルの実力者も、全日本では対戦相手から対策を立てられるためか、なかなか勝ち上がれない

➔ 比較的ワンサイドの試合が多かった女子4回戦にあって、随一の激戦。土井が辛くも逃げ切る

4 Round-4 3
土井 原
みなみ -6、5、2、13 ちひろ
中国電力 -11、-10、6 アスモ



WOMEN'S SINGLES ● BEST 32

女子シングルス《ベスト32》



全日本
女子監督

村上恭和

際立つ石川の成長ぶり。
全体では3球目攻撃のさらなる強化を望みたい

2 連覇を果たした石川佳純(全農)は、この1年でさらに成長した。サーブスの精度がより高くなり、男子選手との練習によって台から距離を取ってもプレーできるし、もちろん前陣でのカウンターもできる。

今の石川に勝てる女子選手は、日本にはなかなかないだろう。強化の方向性もこのままで問題ない。強いて課題を挙げるとすれば、中国選手に勝ち切るために、レシーブの幅をもう少し広げてほしい。

2位の森蘭美咲(日立化成)は福原愛(ANA)が欠場したブロックから勝ち上がり、幸運な部分もあったが、準々決勝の松平志穂(ミキハウス)戦を乗り切ったのが大きい。しかし、決勝で対戦した石川はまさに「バック表キラー」。かつては王越古(シンガポール)にも完勝していたし、右利きのバック表ソフトの選手を非常に得意としている。ふたりの試合展開は中学生の頃からほとんど同じで、石川が森蘭のバックへ長いサーブを出して、少し台から距離を取って両サイドを厳しく攻める。



優勝候補の大本命という重圧をはねのけた石川

森蘭はフォアは強いので、バック表ソフトの球種を増やすべきだ。今は強いボールしか出せないの、ナックルを混ぜたり、小さく前に落とすようなショットを使いたい。このままのスタイルでは石川に勝つのは難しい。

3位に入った前田美優(希望が丘高)は、昨年の後半から国際大会でも絶好調だった。準決勝の石川戦では、バック対バックの打ち合いで負けずに、石川のフォアへ速いボールで攻め、石川を最も苦しめた。左利きの相手のフォアを速く攻められる「サウスポーキラー」の前田と、先にフォアを攻められると弱い部分がある石川が対戦したため、最後までもつれる試合展開になった。

前田がこれから国際舞台で戦い、中国選手を破るために必要なのは3球目攻撃だ。勝ちを拾う選手ではなく、本当に勝ちにいつて勝てる選手は、サーブスからの絶対的な3球目攻撃のパターンを必ず持っている。互角のラリーに持ち込まれる前に、3球目攻撃で確実に得点することができる。

同じく3位の石垣優香(日本生命)はこの2年くらいで少しずつスタイルを変え、攻撃を増やしている。ただし、まだ未完成で、特に表ソフトのストロークやつなぎのボールに対する攻撃が安定していない。そういう意味では、バック表ソフトで石垣の手の内を知り尽くしている森蘭は、いわば「石垣キラー」といえる選手だろう。

今大会でベスト8に入った14



松澤を破り、大きなインパクトを残した平野美

歳の平野美宇(JOCエリートアカデミー)や伊藤美誠(スターツSC)は、昨年まで一般ではなかなか勝てなかったのが、この1年で急激に力をつけた。ふたりともタフな相手と世界で戦ってきているし、すでにコートでは「風格」を感じさせる。

平野美はラリーに強い松澤茉莉奈(日立化成)をラリー戦で上回り、日本リーグで最高殊勲選手を獲るほどの選手から勝利をあげた。ボールを正確に相手コートに運ぶ抜群のラケットコントロールと、早い打球点でストロークにも攻められるのが平野美の強さだ。多彩なプレーが持ち味の伊藤は準々決勝で石川に敗れたが、反対側のブロックにいたら決勝に勝ち上がったもおかしくなかった。すでにそれくらいの力はある。

今大会はプラスチックボールの導入が大きな変更点だった。キャリアが短いほうが順応が早いという声もあるが、年齢はあまり関係ないと感じている。カット型は回転量の減少や、バウンドが高くなりやすいため、にやや不利になる印象があるが、攻撃選手については大きな影響はなかった。しかし、相手の回転や球威を利用するだけのプレーではボールが落ちてしまうので、今まで以上に自分から攻撃の威力を出す意識が重要だろう。

日本女子のレベルは確実に上がっている。これからは先に述べたように、確実に得点できる3球目攻撃のパターンを2種類、3種類と作ることに取り組んでいてもらいたい。

※用具は全日本で使用したものの。試合名のない戦績は、全日本のもの(年は年度表記)。●ラケット(グリップ) ▲フォア面(表面) ラバー ★バック面(裏面) ラバー R=Ranking

※ EA=JOC エリートアカデミー

R 4 岸川聖也

Seiya Kishikawa



ファースト千葉・福岡県出身、27歳。仙台育英学園高卒。複5回優勝。13年7位。12年ロンドン五輪ベスト8。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ティモボル・ALC (FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・80(特厚)

R 3 丹羽孝希

Koki Nitta



明治大・東京/北海道出身、20歳。青森山田高卒。12年単・複優勝。11年世界ジュニア優勝。13年全日学優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ビスカリア(FL) ▲バタフライ/テナジー・80(特厚) ★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 2 神巧也

Takuya Jin



明治大・東京/青森県出身、21歳。青森山田高卒。11年全日学単・複優勝。11年全日学選抜優勝。13・14年全日学ベスト8。右S裏・裏/ドライブ型。●ヤサカ/馬林エキストラスペシャル(FL) ▲★ヤサカ/ラクザX(特厚)

R 1 水谷隼

Jun Mizutani



beacon.LAB・東京/静岡県出身、25歳。明治大卒。06~10・13年優勝。06~09・11年複優勝。14年グランドファイナル優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/水谷隼・ZLC (ST) ▲★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 8 吉田雅己

Masaki Yoshida



愛知工業大・愛知/北海道出身、20歳。青森山田高卒。13年6位。12年インターハイ優勝。14年全日学3位。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/インナーフォース・ZLC(FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・80(特厚)

R 7 吉田海偉

Kaiti Yoshida



Global Athlete Project・埼玉/中国出身、33歳。青森短期大卒。04・05年優勝。06・07年準優勝。13年3位。13年ベラルーシオープン優勝。右P裏/ドライブ型。●バタフライ/吉田海偉▲バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 6 吉村真晴

Maharu Yoshimura



愛知工業大・愛知/茨城県出身、21歳。野田学園高卒。11年優勝。11年アジアジュニア優勝。12年全日学選抜優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/特注インナーフォース・ZLC (FL) ▲★バタフライ/テナジー・05(特厚)

R 5 松平健太

Kenta Matsudaira



JTB・東京/石川県出身、23歳。青森山田高卒。11・12年3位。10・12年複優勝。13年世界選手権ベスト8。13年アジア選手権単・複3位。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/ティモボル・ALC(FL) ▲★バタフライ/テナジー・05(特厚)

R 12 藤本海統

Kaito Fujimoto



日鉄住金物流・和歌山/兵庫県出身、23歳。近畿大卒。10年混合複準優勝。11年全日学選抜ベスト8。14年全日本社会人複ベスト8。左S裏・裏/ドライブ型。●ニッタク/リアロックス (FL) ▲★ニッタク/ファスターク G-1(特厚)

R 11 上田仁

Jin Ueda



協和発酵キリン・東京/京都府出身、23歳。青森大卒。13年3位。12年全日学優勝。13年ジャパンオープン複優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/インナーフォース・ZLC (FL) ▲★バタフライ/テナジー・05(特厚)

R 10 松平賢二

Kenji Matsudaira



協和発酵キリン・東京/石川県出身、25歳。青森大卒。11年3位。14年全日本社会人優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/SK7 (ST) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・80(特厚)

R 9 大島祐哉

Yuya Oshima



早稲田大・東京/京都府出身、20歳。東山高卒。13年15位。12年全日学単・複3位。14年全日学ベスト8。14年全日学選抜優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●ミズノ/フォルティウス FT (FL) ▲★バタフライ/テナジー・05(特厚)

R 16 森本耕平

Kohpei Morimoto



協和発酵キリン・東京/広島県出身、23歳。愛知工業大卒。12年16位。12年全日学複優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/インナーフォース・ZLC (FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 15 森蘭政崇

Masataka Morizono



明治大・東京/東京都出身、19歳。青森山田高卒。12年ジュニア優勝。13年複優勝。14年全日学優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●紅双喜/キョウヒョウ王 (FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★ニッタク/ファスターク G-1(特厚)

R 14 軽部隆介

Ryusuke Karube



シチズン・東京/東京都出身、26歳。明治大卒。07~09年全日学3位。12年ビッグトーナメント優勝。13年全日本社会人優勝・複準優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●TSP/スワット (ST) ▲★エクシオン/オメガV アジア (MAX)

R 13 塩野真人

Masato Shiono



東京アート・東京/埼玉県出身、28歳。早稲田大卒。13年ジャパン・チェコオープン優勝。右S裏・粒/カット型。●ドニック/デフレイセンサー (ST) ▲ドニック/ブルーファイア JP01 (MAX) ★ドニック/スパイク P2 (0.3mm)

※用具は全日本で使用したもの。出身校のあとの試合名のない戦績は、全日本のもの。 ●ラケット(グリップ) ▲フォア面ラバー ★バック面ラバー R=Ranking

R 4 石垣優香
Yuka Ishigaki



日本生命・大阪/愛知県出身、25歳。淑徳大卒。13年ユニバーシアード団体優勝。15年ハンガリーオープン3位。右S裏・表/カット型。●ニッタク/キムギョンア(ST) ▲ニッタク/P12(2.0mm) ★ニッタク/閃霊(薄)

R 3 前田美優
Miyu Maeda



希望が丘高・福岡/香川県出身、18歳。四天王寺羽曳丘中卒。12年混合複優勝。12・14年インターハイ優勝。左S裏・表/前陣速攻型。●スティガ/クリッパード(FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★ニッタク/ハモンドFA(厚)

R 2 森蘭美咲
Misaki Morizono



日立化成・茨城/東京都出身、22歳。青森山田高卒。13年混合複優勝。14年ベラルーシオープン準優勝。右S裏・表/前陣速攻型。●スティガ/クリッパード CR WRB (FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★ニッタク/モリスト SP(厚)

R 1 石川佳純
Kasumi Ishikawa



全農・山口/山口県出身、21歳。四天王寺高卒。10年混合複優勝。13年単複優勝。14年グランドファイナル優勝。左S裏・裏/ドライブ型。●スティガ/クリッパード CR WRB(FL) ▲ニッタク/ファスターク G-1(特厚) ★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 8 伊藤美誠
Mima Ito



スターツ SC・大阪/静岡県出身、14歳。昇陽中在学。14年全中準優勝。14年グランドファイナル複優勝。右S裏・表/前陣速攻型。●ニッタク/アコステックカーボン(ST) ▲ニッタク/ファスターク G-1(特厚) ★ニッタク/モリスト SP(厚)

R 7 平野美宇
Miu Hirano



EA・東京/山梨県出身、14歳。稲付中在学。13年ジュニア準優勝。14年グランドファイナル複優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●スティガ/クリッパード(FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 6 佐藤 瞳
Hitomi Sato



札幌大谷高・北海道/北海道出身、17歳。尾根部中卒。12年全中優勝。13年インターハイ準優勝。右S裏・表/ドライブ型。●スティガ/クリッパード(FL) ▲バタフライ/テナジー・64(特厚) ★バタフライ/フェイント・LONG II(超極薄)

R 5 松平志穂
Shiho Matsudaira



ミキハウス・大阪/石川県出身、19歳。四天王寺高卒。12年ジュニア優勝。14年全日本社会人ベスト8。右S裏・裏/ドライブ型。●スティガ/ローズウッドNCT V(FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 12 加藤美優
Miyu Kato



EA・東京/東京都出身、15歳。稲付中在学。13年10位・ジュニア優勝。14年ユース五輪4位・混合団体準優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/張継科・SUPER ZLC(FL) ▲★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 11 山本 伶
Rei Yamamoto



中央大・東京/新潟県出身、19歳。青森山田高卒。13年インターハイベスト8・複優勝。14年全日学3位。右S裏・裏/ドライブ型。●ニッタク/ルデアックパワー(ST) ▲バタフライ/テナジー・64(特厚) ★バタフライ/テナジー・05(特厚)

R 10 田代早紀
Saki Tashiro



日本生命・大阪/岡山県出身、23歳。山陽女子高卒。11年3位、12・13年6位。11年全日本社会人準優勝。14年トップ12優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●スティガ/エバンホルツ NCT V(FL) ▲★バタフライ/テナジー・05(特厚)

R 9 松澤菜里奈
Marina Matsuzawa



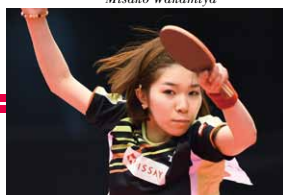
日立化成・茨城/長野県出身、22歳。淑徳大卒。12年3位。10年全日学選抜優勝。11年全日学優勝。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/劉詩雯(FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・05・FX(特厚)

R 16 牛嶋星羅
Seira Ushijima



正智深谷高・埼玉/熊本県出身、17歳。天明中卒。14年インターハイベスト8。右S裏・表/カット型。●ドニック/デフブレイクラシック センゾー(ST) ▲エクシオン/オメガ V ツアー(MAX) ★ジュイック/パチスマII(厚)

R 15 若宮三紗子
Misako Wakamiya



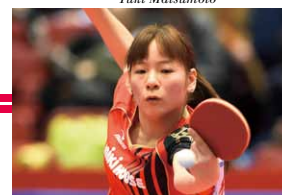
日本生命・大阪/香川県出身、25歳。尽誠学園高卒。9~12年複優勝、13年単・混合複3位。12年トップ12優勝。左S裏・表/前陣速攻型。●TSP/スワット(ST) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★ニッタク/モリスト SP(厚)

R 14 酒井春香
Haruka Sakai



ミキハウス・大阪/山形県出身、23歳。四天王寺高卒。10年複ベスト8。13年全日本社会人ベスト8。右S裏・裏/ドライブ型。●バタフライ/インナーフォース・ZLF(FL) ▲バタフライ/テナジー・05(特厚) ★バタフライ/テナジー・64(特厚)

R 13 松本優希
Yuki Matsumoto



ミキハウス・大阪/大分県出身、21歳。四天王寺高卒。11年インターハイ3位・複優勝。14年全日本社会人ベスト8。左S裏・裏/ドライブ型。●スティガ/ローズウッドNCT V(FL) ▲バタフライ/テナジー・64(厚) ★バタフライ/テナジー・64・FX(厚)



“挑戦者の気持ちで” 見事2連覇!!



森蘭政崇(左)・三部航平

[明治大・東京 / 青森山田高・青森]

FINAL
3 VS 0
森蘭 11-9 岸川
三部 11-7 水谷
13-11
明治大 青森山田高 ファースト beacon.LAB



↑ 森蘭のフットワークを活かしたフォアドライブはダブルスではさらに脅威となる。大島(早稲田大)とのペアで挑む世界選手権にも期待

MEN'S DOUBLES 男子ダブルス



吉村和弘(右)・平野晃生

[野田学園高・山口]

←「思い切り振っていいこうと思っていた」(平野)という言葉どおり、グイグイ攻めた吉村・平野。松平・丹羽(JTB / 明治大)が敗れたヤマを勝ち上がり、優勝ペアにも肉薄



張一博(左)・高木和卓

[東京アート・東京]

→ 全日本社会人優勝ペアは昨年のベスト8からワンランクアップの3位。準決勝は岸川・水谷の前にコンビネーションを発揮できず、完敗を喫した



ゴールデンコンビは 昨年のリベンジ狙うも準V



岸川聖也(右)・水谷隼

[ファースト・千葉 / beacon.LAB・東京]

世界選手権で2度のメダル獲得、全日本でも5度の優勝を誇る岸川・水谷は、^{ほんしゃく}盤石の勝ち上がりで決勝へ。昨年敗れた森蘭・三部にリベンジを狙ったが、1ゲーム目を競り合いで落とし、最後までペースを握れず敗戦。「昨年とはやり方を変えたけど、相手がうまく対応してきた。逆にぼくらは相手のプレーに今年も対応できずやられてしまった」(岸川)。

BEST 8



森田侑樹(左)・軽部隆介

[シチズン・東京]

日本リーグで活躍を見せる実力派ペア。キレのある攻撃を見せたが、吉村・平野の勢いに押された



加藤由行(右)・吉田雅己

[愛知工業大・愛知]

レシーブからチキータで積極的に攻め込み、優勝した森蘭・三部に最終ゲーム11本まで食い下がる



吉村真晴(右)・藤村友也

[愛知工業大・愛知]

藤村のコース取りと吉村のパワードライブがマッチしベスト8入り。左右から広角に打ち分け、得点を重ねた



松平賢二(右)・上田仁

[協和発酵キリン・東京]

09年世界選手権代表ペアが復活。質の高い両ハンドで戦うも、岸川・水谷戦は1ゲームを奪うにとどまった



FINAL		VS		FINAL	
3	11-6	2	9-11	11-6	11-8
平野	9-11	阿部	7-11	石川	14-12
石川	11-8	森蘭	11-8	全農	四天王寺高

↑ 連続攻撃に苦しめられながらも、ラリーで粘り逆転で勝利。勝負所での強さはさすが

昨年の女王ペアは4回戦で平野・伊藤(JOCエリートアカデミー/スターズSC)、準々決勝で石川・加藤、決勝で阿部・森蘭と、向かってくる若手に連続し見事2連覇を達成。競り合う場面はあっても、ここぞの場面では絶対に点を取る勝負強さを見せた。

「決勝の阿部・森蘭は)思った以上に向かってきて、勢いがあった。苦しい場面でもお互いに戦術の確認をして、大事な場面で1本取れたことが勝因」(石川)。「若手には勢いがあるけど、私たちには経験と昨年優勝した自信がある。辛い試合の連続だったので、昨年の優勝の倍くらいうれしいです」(平野)。



若手の挑戦はねのけ 貫禄のV2!!

平野早矢香(右)・石川佳純

[ミキハウス・大阪/全農・山口]

女子ダブルス

WOMEN'S DOUBLES

怒濤の連続攻撃!! 最後のペアリングで決勝へ



阿部愛莉(左)・森蘭美月

[四天王寺高・大阪]

抜群のコンビネーションで決勝まで全試合ストレートで勝ち上がったインターハイ準優勝ペア。阿部がバックの変化で仕掛け、敗れたペアが口を揃えて「すごい」と語った森蘭の強烈なドライブで得点を重ねた。「これから卒業して進路も別なので、ペアを組むのはこれが最後だと思います。負けは悔しいですけど、自信になりました」(森蘭)。

中村薫子(左)・市川梓

[日立化成・茨城]

→「サーブ・レシーブに最後まで自信が持てず、大事な場面でミスが出た」(市川)と点数は競りながらも阿部・森蘭にストレートで敗れ、2年連続3位に悔しさが残る



3位

田代早紀(右)・藤井優子

[日本生命・大阪]

← 日本リーグでも活躍する実力者ペアは昨年に続き準決勝で平野・石川に敗れ、3度目の3位。安定感で勝る相手に対して突破口を見出せなかった

BEST 8



石川梨良(左)・加藤美優

[EA/帝京/EA・東京]

相手の意表をつきレシーブとコース取りで接戦を勝ち上がる。平野・石川ペアにも1ゲームを奪い食らいつく



土田美紀(左)・三宅菜津美

[中国電力・広島]

左右からの速攻で強敵の松澤・森蘭(日立化成)に勝利も、3年連続の対戦となった田代・藤井に惜敗



土井みなみ(左)・宋恵佳

[中国電力・広島]

ともに力強い両ハンドを見せベスト8入り。中国電力は出場したすべてのペアが準々決勝進出と健闘



中川博子(左)・土田美佳

[中国電力・広島]

昨年の準優勝ペアは高校生ペアの勢いを止められずベスト8で終戦。最後まで主導権を握れなかった



“今年は絶対勝つ” 4度目挑戦で初制覇!!

吉村真晴 (右)・石川佳純

[愛知工業大・愛知/全農・山口]

FINAL VS

3	吉村 11-6	松平
	石川 11-9	若宮

愛知工業大 全農
協和発酵キリン 日本生命

「今年こそは優勝する」とタイトルへの強い想いを胸に、ペア結成から4度目の挑戦で初優勝を果たした。3回戦では横山・土田美佳 (原田鋼業/中国電力) に追いつめられたが、粘りのラリーで逆転勝利。この試合で勢いに乗り、準々決勝から決勝まですべてストレート勝ちで強さを見せた。「3位、2位、2位と来ていたので、今年は絶対に優勝しなかった。(ペアを組んで) 4年目でコンビネーションは良くなっていると思うし、何度も負けを覚悟した3回戦の苦しい試合を乗り越えて、ペアとして成長できたと思う」(吉村)。



↑大苦戦した横山・土田戦では高い集中力を見せ、逆転勝利。最後は吉村がストレートに打ち抜き、勝負を決めた

MIXED DOUBLES 混合ダブルス



2度目の優勝目指すも
決勝は完敗...

松平賢二 (右)・若宮三紗子

[協和発酵キリン・東京/日本生命・大阪]

2011年度優勝ペアは2度目の優勝を目指し、気合いの入ったプレーを見せたが、吉村・石川にサービス、レシーブで崩されストレートで敗戦を喫した。序盤でリードを奪いながら、逆転で失った2ゲーム目が悔やまれる。

田添健汰 (右)・前田美優

[専修大/希望が丘高・福岡]

→2年前のチャンピオンペアは初戦で苦しんだものの、徐々に調子を上げ、3位入賞。田添、前田ともに磨きのかかったプレーを見せた



MIXED DOUBLES 3位

時吉佑一 (右)・山梨有理

[ZEOS/ミズノ・東京]

←時吉の両ハンドドライブ、山梨の速攻がかみ合った。ともに高い攻撃力を誇り、準々決勝では御内・北岡のカットを粉碎し、入賞を決めた

BEST 8



御内健太郎 (左)・北岡エリ子

[シチズン・東京/日立化成・茨城]

1ゲームも落とすことなく準々決勝へと駒を進めたが、時吉・山梨に打ち込まれ、昨年と同じくベスト8



英田理志 (左)・根本理世

[朝日大/十六銀行・岐阜]

カットに加え、レシーブ強打や攻撃など、多彩な技で勝ち上がるも、松平・若宮の攻撃はしのぎきれず



山本勝也 (右)・小道上野結

[早稲田大・東京]

ラリー戦に強さを見せ、前回3位の笠原兄妹 (協和発酵キリン/NTT東日本東京) ペアに勝利



及川瑞基 (右)・宋恵佳

[青森山田高・青森/中国電力・広島]

若さに似合わぬテクニカルなレシーブと台上プレーで森田・山本 (シチズン/中央大) に競り勝った

GIRLS • JUNIOR

ジュニア女子



伊藤美誠

[スターツ SC 中②・大阪]

平野美宇、早田ひなという二人のライバルを下し、伊藤が有望株ひしめく、群雄割拠の女子ジュニアを制した。「同世代だと向かって来られて少しやりにくい」と言うとおりの、4回戦から準決勝まですべてフルゲームで勝利と、決して楽な勝ち上がりではなかったが、パンチ力と変化を兼備した速攻と、年齢に見合わせ試合巧者ぶりを見せた。中学2年生での優勝は福原愛、石川佳純に続き、史上3人目の快挙。

「最後まで落ち着いてプレーできたこと、練習していた守りの部分で点が取れるようになった部分は良かったと思う。準決勝で何度も負けそうになって、それを乗り越えられたので、決勝は思い切ってプレーできた」(伊藤)



↑注目のミウ・ミマ対決は大接戦。3度のマッチポイントをしのいだ伊藤が逆転で決勝へ

SEMI-FINAL	
3	2
伊藤美誠	平野美宇
スターツ SC	EA
11-5	10-12
5-11	11-4
14-12	



強敵ひしめく女子ジュニア ライバル連破し 栄冠は美誠に輝く



早田にあえて打たせ、バックの表ソフトの変化で揺さぶる「後の先」の戦術でミスを誘い、ストレートで優勝を決めた

FINAL	
3	0
伊藤美誠	早田ひな
スターツ SC	石田卓球クラブ
11-8	11-9
11-9	



1年間の成長を示した 快速両ハンドの 大器・早田が決勝へ



早田ひな

[石田卓球クラブ中②・福岡]

1年前の全日本ジュニアは3回戦で敗れた早田。しかし今大会は1ゲームを落としたのみの圧巻のプレーで決勝まで駆け上がり、この1年間での成長を見せた。決勝は伊藤に振り回されてミスが出たが、ダイナミックな両ハンドは同学年の伊藤、平野にも勝るとも劣らないスケールの大きさを感じさせた。

「私も実力はついてきていると思うけど、ふたり(伊藤、平野)のほうが頭が良いし、点の取り方を知っている。まだまだ足りない部分は多いので、そこはしっかり埋めていきたい」と決勝後に語った早田。自らの現在位置と先を歩むライバルとの距離を見定めながら、大器は開花の時を待つ。

※学校名(所属チーム)の後の○数字は学年

BOYS JUNIOR

ジュニア男子

BOYS JUNIOR
優勝

及川瑞基

[青森山田高 ②・青森]



↑レシーブからチキータで積極的に仕掛け、粘りのラリー戦に持ち込んだ

巧みなコース取りと、ラリーでの球際の強さが光る若き頭脳派・及川がジュニアの頂点に立った。準々決勝では快進撃を続ける小学5年生・張本を一蹴し、準決勝では優勝候補の緒方を下し勝ち上がった伊丹に勝利。手の内を知る青森山田の同期・三部との決勝は各ゲームともミスのないラリー戦となり、序盤は三部がリードするも、終盤に追いついた及川が勝負所で得点を重ね、小学生時代からのライバルをストレートで下した。

「優勝できてホッとしています。(ジュニアは)3年連続ベスト16止まりでランク(ベスト8)にも入ったことがなかったので、うれしい。サービスの配分、レシーブから積極的にチキータで先手を取れたことが良かった」(及川)

初ランクから一気に頂点へ
知的なガッツマン
及川がタイトル奪取



互角の展開も、勝負所での1本の差で及川に軍配



三部航平

[青森山田高 ②・青森]

BOYS JUNIOR
準優勝

↓リードを奪うも及川の粘りに屈した



優勝候補筆頭として臨んだ三部だが、最後の全日本ジュニアは自身2度目の準優勝に終わった。試合中はクールな三部だが、試合後は「こんな

大きな舞台で勝てなかったのは悔しい。大事な場面でもしっかり対応されたし及川は強かった。何度かジャッジで試合が中断して、そこで集中力を維持できなかった。1本、2本の集中力の差だったと思う」と表情に悔しさをにじませた。

類いまれなるポテンシャルを持ちながらも同い年のライバル・及川に阻まれたジュニアのタイトル。「及川とは今年のインターハイで当たる可能性もあるので、今度は勝ちます」と高校最後の夏の舞台でのリベンジを誓った。

序盤のリードを守れず
最後のジュニアは
悔恨の準優勝



「ジュニアの目標は優勝」と大会初日に語った昨年2位の平野は準決勝でダブルspartnerの伊藤との壮絶なラリー戦に散る。序盤は伊藤にリードされるも逆転、最終ゲームも3度のマッチポイントを奪ったが、あと1本が遠かった。伊藤戦を前に「特別な意識はない」とコメントしていたが、敗戦後はベンチで悔し涙に暮れた(右下写真)。



乱れぬ両ハンドで 中3・木村が堂々表彰台



木村香純

[ミキハウス JSC 中③・大阪]

安定感抜群の両ハンドドライブで先輩の三條を下した木村が3位入賞。落ち着いた試合運びやサービスの巧さも光った。準決勝の早田戦は各ゲームとも競り合いながらも、ストレートで敗れたが、強豪ミキハウスで着実に力をつけ、混戦の女子ジュニアで存在感を見せた。

平野美宇

[JOC エリートアカデミー 中②・東京]



昨年準V・美宇は 美誠との熱戦に散る



GIRLS JUNIOR

BEST 8



芝田沙季

[四天王寺高②・大阪]

ダイナミックな両ハンドで平野と激しいラリー戦を展開するも、緩急をつけた平野の攻めに対してミスが出た



浜本由惟

[EA / 大原学園 高①・東京]

2年前のファイナリストは伊藤との打撃戦に敗れベスト8で終戦。勝負所での強さが欲しい



三條裕紀

[四天王寺高①・大阪]

バックの変化で揺さぶり、思い切りの良いフォア強打を浴びせて優勝候補の一角・佐藤を沈め、ベスト8入り



橋本帆乃香

[四天王寺高①・大阪]

前回女王の加藤を下した実力派トップパー。弾道の低いカットに加え、時折見せる攻撃も効果的に決まった

BEST 16



馬場麻裕

[芦屋学園高①・兵庫]

力強いフォアドライブが武器だが、平野には完敗



佐藤瞳

[札幌大谷高②・北海道]

優勝を狙ったが三條の攻めに反撃の糸口を見出せず



金子碧衣

[愛み大塚徳高②・愛知]

田口(正智深谷高)に勝利も、木村にはベースを握れず



山本笙子

[福井商業高①・福井]

ラリーに強さを見せたが、浜本には押し切られた



加藤美優

[EA 中③・東京]

前回王者は橋本のカットを打ち抜かず、連覇を逃す



田中愛弥香

[武蔵野高②・東京]

注目を集めた木原(ALL STAR)を落着いて下した



鎌田那美

[駒大苫小牧高②・北海道]

見事なカット打ちで牛嶋(正智深谷高)を下す金星



木村光歩

[山陽女子中③・岡山]

一般でも加藤(十六銀行)に勝利するなど健闘を見せる

※ EA = JOC エリートアカデミー

「戦術はあまり気にせず、思い切って打ち込むだけ」と両ハンドを爆発させた青山がノーシードからベスト4へ。三部との準決勝はサービス・レシーブで相手に主導権を握られ、思い切りの良い強打が影を潜めたが、来季の野田学園を担う存在として、その成長を見せつけた。

青山昇太
[野田学園高 ②・山口]

BOYS JUNIOR
3位



ちよとつちゆうしん
**猪突猛進・青山
怒濤の攻めで快進撃**



↑ 気迫のプレーで廣田を振り切りベスト4入りを決めた



**初戦のピンチ乗り越え
ベスト4へ躍進**

BOYS JUNIOR
3位

伊丹雄飛

[野田学園高 ①・山口]

初戦の3回戦では中窪(静岡学園高)に2ゲームを先取され、いきなり窮地に立たされるも、徐々に調子を上げ、昨年のベスト16から大きく躍進。準々決勝では「負けたくない」と語った同学年の緒方に打ち勝った。「(及川戦は)ベスト4まで来たので勝ちたかった。また新しい気持ちで頑張りたい」(伊丹)。

BOYS JUNIOR

BEST 8



張本智和

[仙台ジュニアクラブ 小⑤・宮城]

松山、高取(野田学園高)ら実力者に連勝し、男子史上最年少となる小学5年生でベスト8入りの快挙



緒方遼太郎

[EA/帝京高 ①・東京]

第2シードとして上位進出を狙ったが、伊丹との打ち合いに敗れ、昨年と同じベスト8でストップ



坂根翔大

[育英高 ②・兵庫]

ラリー戦に強さを見せ、優勝候補の龍崎を真っ向勝負で撃破。うれしい全国大会初ランク入りを決めた



廣田雅志

[愛工大名電高 ②・愛知]

砵塚にフルゲームで勝利し、ベスト8に勝ち上がった。バランスの良い攻守にセンスを感じさせる

BEST 16



龍崎東真

[EA/帝京高 ①・東京]

優勝候補のひとりだったが、坂根とのラリー戦に敗る



木造勇人

[愛工大附中 ③・愛知]

期待の左腕は及川の粘りに屈し、ベスト16で敗退



高橋徹

[青森山田高 ②・青森]

安定した勝ち上がりも青山の勢いは止められず



松山祐季

[愛工大名電高 ①・愛知]

張本との試合では2ゲームを奪い返し意地を見せた



砵塚将人

[EA/帝京高 ②・東京]

力をつけているが、今年もベスト16を越えられなかった



木村勇介

[関西高 ②・岡山]

気合いのプレーで伊丹に挑むもストレートで敗戦



金光宏暢

[EA中 ②・東京]

全中2位の強打者は高見(愛工大附中)に打ち勝つ



一ノ瀬拓巳

[青森山田高 ②・青森]

緒方をあと一歩まで追いつめたが、最後は逃げ切られた

ALL JAPAN HIGH ANGLE

全日本 俯瞰の眼

ふかん

大会日程が1日延びて、7日間になった今年の全日本選手権。記者席とフロアを行ったり、来たるの長丁場の中で、見えてきたものとは。

文=柳澤太朗 text by Taro Yanagisawa

プラスチックボールは、全日本選手権を変えたのか。

ひとりで言えば、変わらなかった。史上初のプラボールでの開催となった、平成26年度全日本選手権。男子での神巧也の決勝進出はひとつのサプライズだが、それでも今大会が波乱の多い大会という印象はない。

心配されたプラボールの「割れやすさ」も大きな問題にはならず。男女シングルス決勝でもボールは割れなかった。ただし、男子シングルス5回戦の神(巧也)対坪井勇磨戦ではボールが4個割れ、コートに用意されたボールが足りなくなる事態も発生。今大会を大いに盛り上げた神には「ファイナリスト」だけでなく「ボール・プレーカー」の称号も贈りたい。



女子チャンピオンの石川は以前よりさらにプレー領域が広くなり、攻守に厚みのあるプレーを見せた

変化を恐れないチャンピオン 大舞台で問われる「挑戦者精神」

あえて使い慣れていないボールで王者・水谷隼に勝負を挑み、5回戦で激戦を演じた笠原弘光の智略は、勝利すれば「プラボール全日本」を象徴する事件だったが、あと一歩で水谷の意地に屈した。大会期間中、選手からは「ジャンケンにすごく神経を遣う。ボールを統一してほしい」という声も上がっている。選手同士のジャンケンでボールを選ぶ方法にこれまで批判の声は出ていなかったが、打球感が激しいプラボールでは反発が大きくなった。来年は使用球の統一がひとつの課題になる。

技術面という観点で見れば、やはり水谷と石川佳純というふたりのチャンピオン

の進化が光っていた。

「丹羽選手や松平健太選手は非常に攻めが速い。彼らに攻めの速さでは劣っているとずっと思っていたので、普段から少しでも速く攻められるよう意識してきた」。優勝会見でそう語った水谷。これまではバックハンドやブロックを1球入っていたボールも、打球点の早いフォアの連続攻撃で仕留めた。相手の動きを見抜いて、ストロークに打ち抜くコース取りはさすがのひと言だった。

石川もプレー領域がさらに広くなり、台から距離を取って攻めたり、前陣でカウンタースタリと自在なプレー。バックドライブはより威力と安定性を増し、攻

撃力では日本女子の中でも抜きん出た存在になっている。

水谷と石川、ふたりのチャンピオンが常に世界を視野に入れ、進化を続けているのに対し、ライバルたちのプレーは変わっているのか。目を引くような進化を遂げている選手は決して多くない。安定して上位に勝ち上がるもの、準決勝や準々決勝がひとつの壁になっている選手が多い。数年前はもつと勢いがあつたはずなのに、いつしかプレーが「頭打ち」になってしまっている。

今大会、女子ではジュニア選手の活躍が目覚ましく、ベスト8には伊藤美誠、平野美宇という中学生2人に、前田美優

と佐藤瞳を加えた昨年の世界ジュニア代表4人が入った。「スーパージュニア」たちのプレーは変化を恐れない。小学生時代からフォアのパンチ力は抜群だった伊藤はバック表ソフトの変化と緩急に取り組み、佐藤は特訓を積んできたバックドライブを武器に、ランク決定戦での根本理世とのカット対決を制した。

プラボールへの対応が若い選手のほうが早かったという見方もできるが、全日本女子の村上恭和監督は「男子では経験豊富な岸川聖也が3位に入っているし、プラボールで若い選手が有利とは感じない」と語る。常にプレーを進化させ、堂々と実力で勝ち取った勝利だ。

平成23・24年度大会で女子シングルス2連覇の福原愛は、フォアハンドのフォームの改造と強化に取り組み、悲願の全日本制覇を成し遂げた。世界に目を向ければ、強烈なフォアのパウードドライブを名を馳せた王励勤(中国)が、30歳を超えてから前陣でのバックドライブ主体のプレーにモデルチェンジした例もある。「何かを変えるには勇気がいるけれど、この挑戦者精神があれば、ほくはこれからの人生をより力強く歩いていけるよ」。引退に際しての王励勤の言葉からは、プレーヤーとして完全燃焼した清々しさを感じられる。

進化するために、変化を恐れてはいけない。同じプレーを続けていたら、やがて取り残されるのがスポーツの厳しさだ。来年も挑戦者精神を持つ選手にだけ、全日本の女神は微笑むのだろう。

全日本フラッシュ!

ALL JAPAN FLASH!!

若手の目覚ましい躍進の中、男女とも昨年度王者が2連覇を果たした平成26年度全日本。プラボール初採用、小学生プレーヤーの活躍、最終日の1台進行の演出など、様々なトピックスを紹介しよう。

プラスチックボール元年 何が変わった?



神・丹羽の男子シングルス準決勝

神の激しいバックハンド連打後、ボールが割れた



「プラスチックボール初採用」となった今回の全日本。昨年度まで使用されていたセルロイドボールと、ボールの飛び方が若干変わるという点に加えて、同じプラボールでもメーカーごとに差があるのが、選手にとって悩ましい点だった。

今年度の全日本では、日本卓球協会公認の7メーカーのプラボールを使用。選手は試合前に、選球所で使用ボールを選ぶ。そして対戦する両者の希望するメーカーが異なる場合、ジャンケンで決めることになる。選手にとって不慣れなメーカーのボールが使用された場合は、それが試合結果に影響する可能性もある。

また、現状のプラボールは割れやすく、ボール破損による試合中のボール交換の場面が例年より明らかに多く見られた。試合の多い大会前半は、連日40個以上のボールが割れたという。ラリー中に明らかに割れた場合は主審がラリーを止めてレットとなる。判定が難しいのは、ラリーを決めるような強打時に割れた場合だが、明らかに相手コートに入らない方向に飛んでいった時はレットにならない。ボール破損に関しては、「ラリーに影響があればレット」が原則なのだ。大会前は、ボール破損に関する判定でもめるケースも危惧されたが、実際には選手が審判に確認する場面は何件かあったものの、深刻にもめることはなかった。

←フロアを出たところに設置されていたボール選球所



→今大会、編集部が確認できた中で、1試合中のボール交換回数 が最も多かった神巧也・坪井勇磨戦(男子5回戦)。1試合で5個のボールが使用された



↑試合中に割れたボールを取り替える光景は、昨年度大会と比べて格段に増えていた



↑試合前のジャンケンの様子。ジャンケンは2回で、最初のジャンケンでボールを選択できる

11歳&10歳が躍動!! スーパー小学生、大奮闘

ミウ・ミマをはじめとするスーパー中学生の活躍が目立った今大会だったが、小学5年生の張本智和、小学4年生の木原美悠というスーパー小学生の活躍にも注目が集まった。

特に、マスコミ・観客の視線を釘付けにしたのは“怪物”張本。ホープス、カデット13歳以下王者の11歳は、ジュニアと一般シングルスに出場。ラリー戦の強さと、小学生とは思えない前陣での鋭い両ハンドドライブ、正確なカウンターで、ジュニアでは強豪高校生を連破しベスト8入賞を決め、大ジャンプ(写真)。準々決勝では、クラブの先輩で今大会優勝した及川(青森山田高)にストレートで敗れたが、大会前半の話題をさらった。

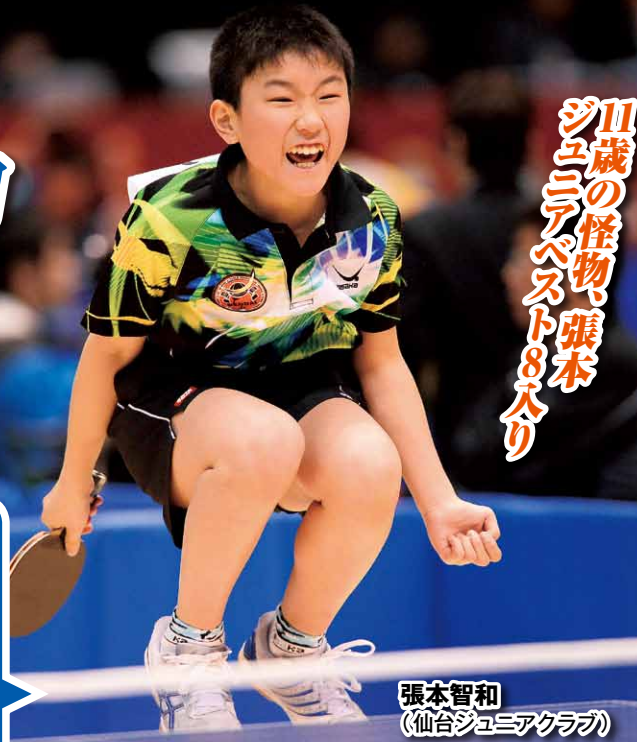
張本智和の2015.1全日本

●ジュニア男子シングルス

- 1回戦 -9,3,6,6 辻智貴(白子高)
- 2回戦 5,1,3 青柳遼(東京工業高専)
- 3回戦 2,5,11 小澤壮(湘南工大附属高)
- 4回戦 9,-11,7,-6,5 高取侑史(野田学園高)
- 5回戦 8,13,-9,-8,7 松山祐季(愛工大名電高)
- 準々決勝 -4,-9,-9 及川瑞基(青森山田高)

●男子シングルス

- 1回戦 -9,-12,-6 神原宏士(埼玉工業大)



11歳の怪物、張本
ジュニアベスト8入り

張本智和
(仙台ジュニアクラブ)



ジュニア5回戦。回転量の多いドライブを放つ松山(手前)を、最終ゲームは5-5から徐々に突き放した

↓一般シングルスでは、青森山田高出身の神原と対戦。積極的に攻めたが、神原のパワーとしのぎの前に敗退



↑準々決勝後の会見では「ドライブのミスが多かった」と悔しそうな表情を見せた。来年はさらに上位を目指す

小4ミミュウ、
快進撃!!



木原美悠
(ALL STAR)

ジュニア4回戦。瀬山(奥)をゲームオール11本で下す



木原美悠の2015.1全日本

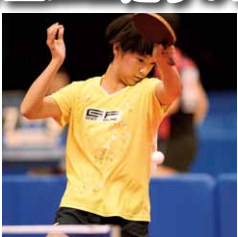
●ジュニア女子シングルス

- 1回戦 5,6,8 尾西茜(木更津総合高)
- 2回戦 -4,4,6,-7,6 弓立美沙穂(正智深谷高)
- 3回戦 6,-6,-11,9,11 瀬山咲希(富田高)
- 4回戦 9,-3,-7,-10 田中愛弥香(武蔵野高)

カブ女王の小4・木原は、大会最年少選手として注目を集める中、落ち着いたプレーでジュニアの4回戦へ進出。表ソフトでの変化プレーとフォアスマッシュを武器に快進撃。2回戦では昨年度全中準優勝の弓立、3回戦では実力者の瀬山をゲームオールで下す大物ぶりを発揮。試合後の会見では、はにかみながらも「来年は3位に入りたい」と力強く語った。

小学生は11選手が全日本に参戦

→ホープス王者の長崎美柚(岸田クラブ)は、高校生のカットを打ち抜けずジュニアの初戦で敗退



↓女子シングルス・混合ダブルス・ジュニア女子の3種目に出場した小学6年の本村凜子(能古見小)



←男子は張本を含め5名の小学生選手がジュニアの部に出場した。写真は小学6年の小林広夢(ワイワイ卓球)

一般種目出場選手の平均年齢は20.6歳。ランク選手でも進む、若年齢化

卓球の開始年齢が年々早まっているのに対応してか、全日本出場選手の年齢も年々若くなってきている。ランカー選手の平均年齢と比較した場合、15年前とは4歳、25年前とは3歳もの差がある。

ランカー選手平均年齢
●平成26年度
男子: 23.6歳 女子: 19.7歳
●平成11年度
男子: 27.4歳 女子: 23.6歳
●平成元年度
男子: 26.4歳 女子: 22.8歳

昨年度大会



↑最終日は4→2→1台での進行。コート用の照明はなかった

2014世界卓球



↑準決勝・決勝は1台進行で、照明によりコートを鮮明に浮かび上がらせていた

男子シングルス	7213	5202	7250	5224	7205	5226	5232	7245
男子ダブルス	7240	7202	7215	7204	7217	7206	7207	7233
女子シングルス	7209	7210	7246	5227	6213	6202	6240	6216
女子ダブルス	7253	7219	7232	7212	6225	6214	6226	6252
男子団体	6205	6206	6219	6230	6209	6210	6223	6212
女子団体	6217	6254	6231	6232	6245	6222	6235	6224

→大型スクリーンに各コートでの試合番号を表示。わかりやすかった



世界卓球仕様へシフト 最終日は初の1台進行

→シングルス決勝の選手入場の演出。ブルーとレッドで静かな闘志を演出か。選手の横には、積み重なるボールの頂上に天皇杯(皇后杯)というオブジェが!

静かな闘志のブルーとレッド



昨年度より、様々な点で改革が行われている全日本。今年も初の試みが各所で見られた。日程が例年よりも1日増え、初の7日間での開催。最終日はJA全農世界卓球2014の時のように、1台のみでの進行&コートを照明で演出。また、観客や選手の導線、マスコミ対応も前回から変更され、セキュリティも以前よりしっかりとしていた。各種変更についてはまだまだ改良点もあると思われるが、より格式の高い大会へとチャレンジを続けていってほしい。

Gatien's Eyes to ALL JAPAN



●93年世界チャンピオン ガシアンが観た ALL JAPAN 「まるで五輪のような闘志を感じる大会」

全日本選手権 (ALL JAPAN) は実は4年前にも一度観ているけど、今回は前の時とは違う感じがした。

会場、観客、そしてメディアによってこの大会は非常に特別な大会のように感じさせる。日本選手はまるでこれが五輪の舞台かのごとく闘争心をむき出しにして戦っている。前回よりも今回のほうがより観客も増えているし、メディアの数も増えており、よりプロフェッショナルな運営になっていて、全日本がひとつのマーケティング商品としての価値を高めている。

大会の盛り上げ方といい、大きなスクリーンの使い方といい、卓球の大きな宣伝になっていて、強い印象を与えている。卓球人としては、日本卓球協会に「おめでとう、素晴らしい大会です」と称賛の言葉を贈りたい。



プロフェッショナルな運営になってきた全日本

私は現役時代に日本には数え切れないほど訪れ、卓球の人々に優しくしてもらい、お世辞抜きに日本が自分にとっては2番

目の故郷のように思っている。そして、日本は卓球において素晴らしい歴史と伝統を持っており、誇るべき卓球のレベルを示している。私は自分の中に「日本的なもの」を感じる時がある。日本人たちはルールを守り、一生懸命練習し、一生懸命動き、ひとつのことへの集中力も高く、調和を取りながら進んでいく。まさにこの大会を日本人たちが素晴らしいものになっている。

そして、卓球に関しても、日本は現在、毎年のように素晴らしい若い選手を輩出している。今大会も特に女子では14歳の選手たちの活躍が光っていた。シングルス準々決勝、準決勝、ダブルスでの決勝なども非常に高いレベルの試合が多かった。2020年の東京五輪でも日本選手の活躍は期待できるだろう。

現在、中国が世界のタイトルを独占している状況の中で、この日本選手の活躍と全日本での盛況ぶりは良いサインになるのではないかと。



←今大会を盛り上げた、14歳の女子選手たち(左から伊藤美誠、早田ひな、平野美宇)

今まで日本のトップクラスで活躍をし続けてきた選手たち。第一線で戦う最後の全日本、それぞれの勇姿を追った。

第一線を退く選手たち



伊藤みどり

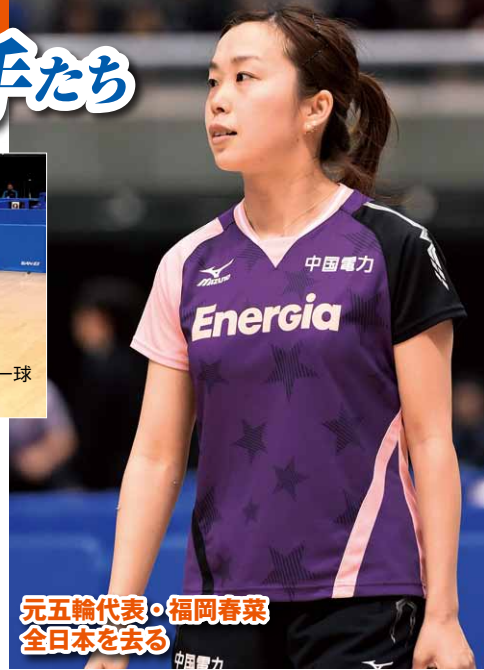


3回戦の森永(アスモ)戦。最後の一球となった王子サービスを放つ福岡

←豪快なドライブで魅了した伊藤(十六銀行)は3回戦で永尾(アスモ)に敗退。「自分がやろうと思っていたことは随所で出せて、結果的にはゲームオールで負けたけれど、だからこそゲームオールまでやれたのかなという感じですよ」(伊藤)

→06・08年世界選手権(団体)銅メダル、08年北京五輪代表の福岡(中国電力)。恩師の作馬六郎氏が見守る中、全日本を最後にラケットを置いた。「卓球が大好きだったからこそ、ここまでやってこれた」(福岡)

元五輪代表・福岡春菜
全日本を去る



田村望

↓全日本で5回のランク入りを誇る坪口(KTY長崎)は、3回戦で星野(埼玉工業大)に敗れ、最後の全日本を終えた。「長崎の皆さんに応援していただいて本当に良かった」(坪口)。今後は教員の道を目指す

↑貴重なベン表速攻選手として活躍してきた田村(JR北海道)。最後となる全日本では、小気味良い速攻プレーで1勝をあげた



坪口道和



下山隆敬

↑全日本学生2連覇、全日本社会人優勝など長年トップとして活躍してきた下山(協発酵キリン)。4回戦で神(明治大)に敗れ第一線を退いた。「(引退は)まだ実感がありません。試合中も意識をすることはなかった」(下山)

↓「感無量です。ここまでやらせてもらえて感謝しかない。最後は親も来てくれて、頑張っている姿を見ることができて良かった」と語った田中(シチズン)。4回戦で松浦(専修大)にゲームオールジュースで敗れ、ベンチで涙が止まらなかった



田中満雄

ミウ・ミマペア 平野・石川に惜敗

12月のワールドツアー・グランドファイナル優勝で、今大会も優勝候補として注目された14歳「ミウ・ミマ」ペア。5回戦で平野・石川ペアとレベルの高いゲームを展開し、ゲームオール5本で惜敗も、会場を多に沸かせた



今大会の男女最年長は47歳&37歳



男子最年長は、昨年に続き47歳の栗原寛(株)徳島銀行(左)。女子は37歳の山本真理(オークワ)。ともに初戦敗退となったが、ベンチプレーヤーとして存在感を見せた

混合ダブルス2回戦、星野直樹(埼玉工業大・手前左)・竹前裕美子(正智深谷高)ペアが昨年王者の張一博・森園美咲ペアを3-1で破る殊勲



第1シードを破る



文武両道・阪大ペア

大阪大の庄島靖(左)・永田昂大ペア。元強豪クラブでプレーし全国経験者の二人は、まさに文武両道を実現している

マスターズ40王者の挑戦は

全日本マスターズ40代優勝の西村雅裕(FEVER/左)は単復に出場。勝利はならなかったが、「若い選手たちのプレーはすごく参考になります。取り入れられる技術はどんどん取り入れていきたい」(西村)と向上心に燃えていた



11年の東日本大震災で被災した岩手県高田高から出場村上奨記。毎日2時間の部活、夜は家の納屋で父と兄と2時間の練習を重ねて全日本ジュニアに初出場。「雰囲気にもまれて力が出せなかったのが悔しいです。次はインターハイに照準を合わせて頑張ります。全国で1勝でも多く勝って、地元を元気づけたい!」(村上)

地元を元気づけたい!

のべ24,500人が全日本を観戦



昨年の入場者数は18,600名だったので、昨年と比べて6,000名以上多くの人たちが観戦に訪れた。試合はもちろん、各メーカーや特設ブースに多くの人々が押し寄せていた。



行列は長く続くよ全日本最終日!

←大会最終2日間は、入り口から体育館の裏手まで長い行列が出現。ちなみに、土曜日は4,900名、日曜日は5,200名が会場を訪れた



↑各メーカーがそれぞれ趣向を凝らしたブースを出店。トップ選手がふらっと訪れる場面も



あきたこまち1ドン山分けくじ引き大会

↑大会スポンサーのJA全農のブースでは、16日から各日くじの当選者500名(合計1,500名)に、「あきたこまち」(2kg)をプレゼント!



盛況!スポーツ医・科学委員会 相談ブース

←日本卓球協会のスポーツ医・科学委員会によるブースが今年も設置。「スポーツ傷害」「栄養」「トレーニング」「ドーピング」について、トップ選手をケアする委員の方が直接相談・指導してくれるというめったにない機会に、連日多くの人が訪れた



チーム・佳純!!

↑コーチ陣に囲まれてうれしそう!な表情の石川選手



即席サイン会

↑会場にはトップ選手がたくさんウロウロ。通路では即席サイン会も出現



売り切れ続出 大会公式ショップが初出店

↑大会公式ショップが初出店。観戦ガイドブック(右)、オリジナルTシャツや記念ボール、缶バッジなどを販売。最終日前に売り切れになるグッズもあった



今年も大好評!!「卓球FM」

↑目の前の試合を元トッププレーヤーらが解説を行うという「卓球FM」が、今年も大好評。元トップ選手だからこそ語れる技術や戦術、そして裏話などを、鋭くも楽しく解説していて楽しめた。今年も、松下雄二さん、河野正和さん、梅村礼さん、下川(藤井)寛子さん、坂本竜介さんが解説を担当した

↓昨年6月に日本卓球協会会長に就任した、藤重貞慶会長(ライオン(株)会長)が表彰式で挨拶



チャンピオンには豪華な副賞が!!

↑各種目優勝者に贈られた副賞の数々。シングルス優勝者には、全国農業協同組合連合会よりお米(1トン)、いわて牛(10kg)、たまご(20kg)、鶏加工品(10kg)。シチズン時計より高級腕時計、日清オイロよりヘルシーセッタ1年分、スターツコーポレーションよりペア宿泊ご招待券が!



おお!? 逆チキータ!!

↑坪口選手が見せたフォア面逆チキータを激写!「バック表の弱点を克服しました!」(坪口)



水谷隼の華麗なるロビング

←男子シングルス決勝で水谷選手が見せた華麗なるロビング。着地で体勢が崩れていないのはさすが!美しい!

石川選手も大記録を作る予感!? 過去の三冠王は、すごい記録の持ち主

今大会、石川佳純が三種目制覇したが、過去の全日本(一般の部)三冠王は、2選手のみ。男子は齋藤清(昭和57・58年度・写真左)、女子は伊藤和子(昭和35年/旧姓山泉・写真右)。ともに、全日本での通算勝数最多記録の持ち主だ(右表参照)。まだ21歳の石川選手も、今後大記録を生み出すかもしれない!



今大会出場選手、シングルス通算勝数トップ5

選手名	所属	勝数	出場回数
水谷隼	(beacon.LAB)	61	13
吉田海偉	(Global Athlete Project)	45	11
岸川聖也	(ファースト)	35	14
高木和卓	(東京アート)	29	12
大矢英俊	(東京アート)	28	11
★齋藤清		101	30
平野早矢香	(ミキハウス)	59	17
石川佳純	(全農)	48	11
福原愛	(ANA)	48	15
河村葉依	(アスモ)	26	14
藤井優子	(日本生命)	25	11
石垣優香	(日本生命)	25	12
★伊藤和子		100	45

シングルス通算優勝回数トップ5

- ①齋藤清 8回
 - ②水谷隼 7回
 - ③長谷川信彦 6回
 - ④藤井和則 5回
 - ⑤松下浩二 4回
 - ⑥偉関晴光 4回
-
- ①小山ちれ 8回
 - ②星野美香 7回
 - ③平野早矢香 5回
 - ④大関行江 5回
 - ⑤保原キヨ 4回

Challenger

挑む者。

ALL JAPAN
FINAL
EMOTION 全日本

天皇杯、皇后杯を手にする勝者はたったひとり。
勝ち続け、チャンピオンになった者に向けられるスポットライトの影には、多くの挑戦者がいる。
チャレンジャー、それは美しいスポーツの姿だ。

森園美咲 >> 日立化成
全日本では2年連続初戦負け
していた森園。今大会での躍
進は彼女に自信を取り戻させ
たに違いない



自信を取り戻した 森園の躍進

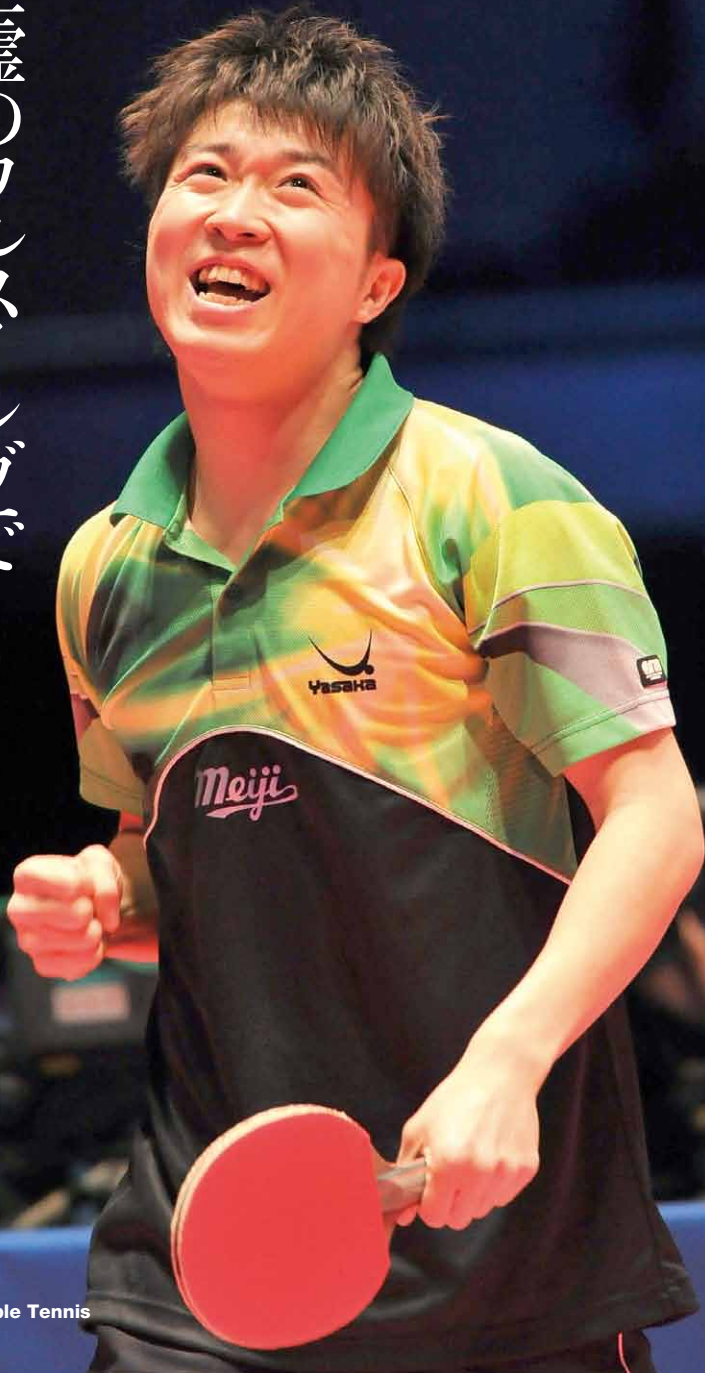




神巧也 >> 明治大

この男の決勝進出を誰が予想できただろうか。コート上での彼はまさにチャレンジャーだった

全身全霊のフルスイングで
ファイナリストとなる



女帝を追い詰めた高校女王

前田美優 >> 希望が丘高
若手女子はミウ・ミマだけでは
ない。インターハイ女王の前
田は、得意の速攻で、石川
を最も追い詰めた



佐藤瞳 >> 札幌大谷高

石垣優香 >> 日本生命



熱戦カット&攻撃 80分の攻防



74往復の長期ラリーもあった両者の対決。攻撃力の高いカットマン同士の戦いは、促進ルールでさらに激しい展開になる。めまぐるしく入れ替わる攻守と駆け引きは、半端な集中力では成り立たない

平成26年度
全日本球
卓球選手権大会



岸川聖也
≫ ファースト



吉田海偉
≫ Global Athlete Project

壁になる ベテラン勢

平均年齢21歳の今大会では33歳の吉田と27歳の岸川はベテランと言って良いだろう。簡単に若手に道を譲る気はない

See you next year ALL JAPAN

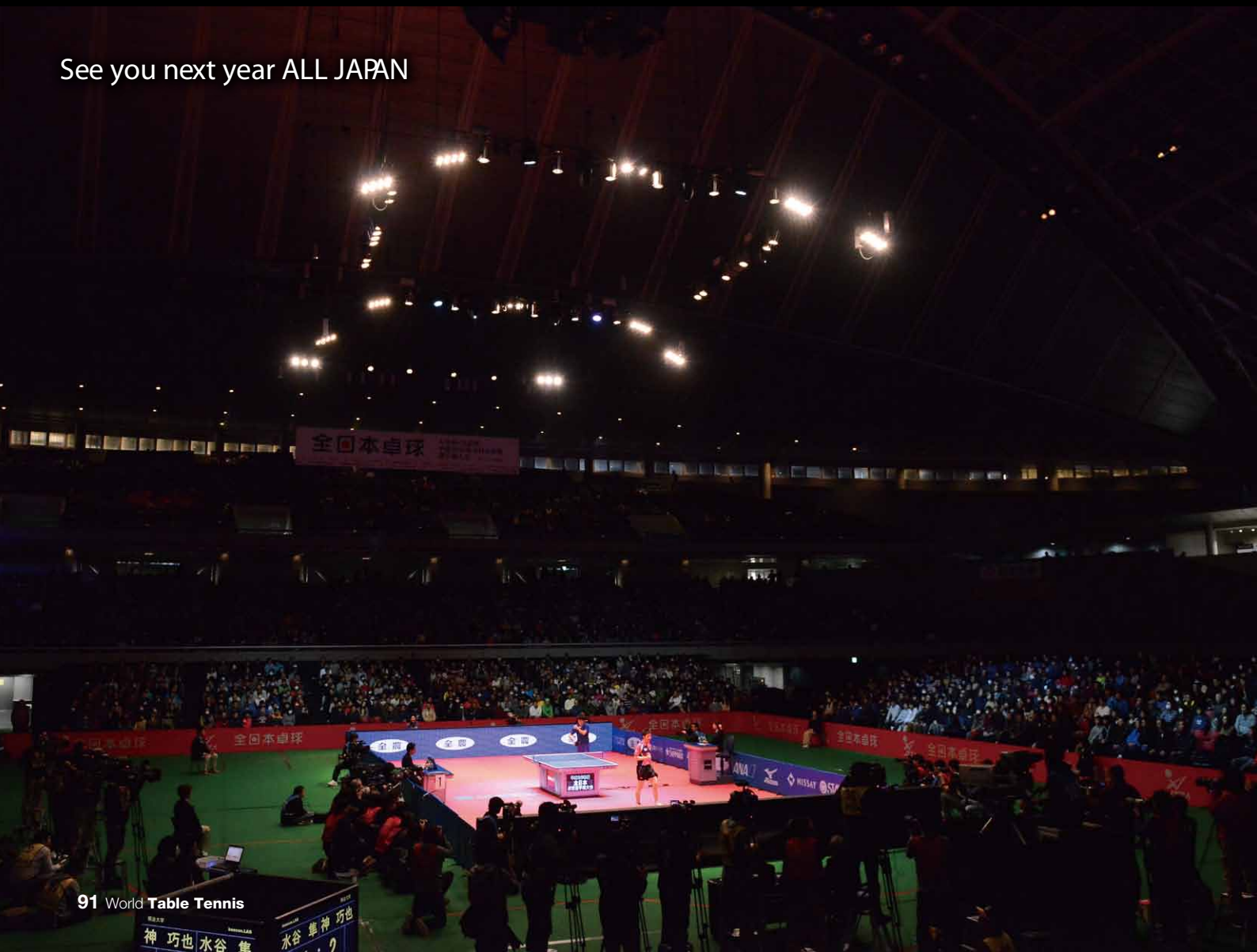


Table of tennis singles results for the All Japan Final Men's Singles. It lists players from various universities and clubs, their opponents, and the results of their matches across multiple rounds.

◆男子シングルス4回戦◆

Results for the 4th round of men's singles tennis. Lists player names, their affiliations, and their match outcomes.

Results for the 5th round of men's singles tennis. Lists player names, their affiliations, and their match outcomes.

Results for the 6th round of men's singles tennis. Lists player names, their affiliations, and their match outcomes.

記録

RESULTS

Table of tennis match results for Women's Singles, listing players, their affiliations, and match scores across various rounds.

◆女子シングルス 4回戦◆

Match results for the 4th round of Women's Singles, including player names, affiliations, and scores.

◆5回戦◆ ○数字はランキング

Match results for the 5th round of Women's Singles, including player names, affiliations, and scores.

◆6回戦◆

Match results for the 6th round of Women's Singles, including player names, affiliations, and scores.

◆準々決勝◆

Quarterfinal match results for Women's Singles.

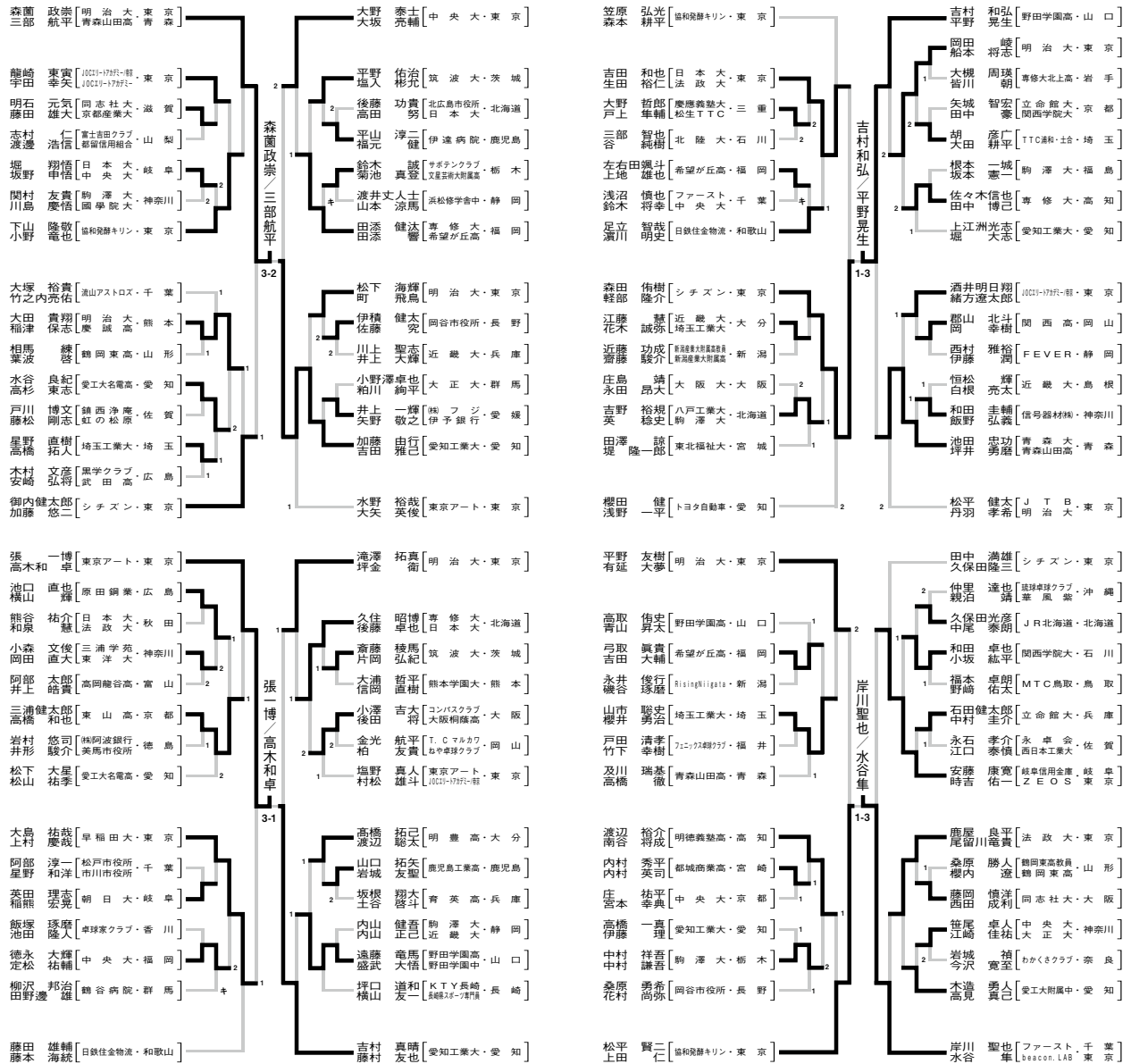
◆準決勝◆

Semifinal match results for Women's Singles.

◆決勝◆

Final match result for Women's Singles.

記録



男子ダブルス

◆5回戦◆○数字はランキング

- ①森田/三宅 (明治大/青森山田高) 8、-8、3、6
- ②御内/加藤 (シチズン)
- ⑤加藤/吉田 (愛知工業大) 10、-9、9、-8、7
- ⑥森田/軽部 (シチズン) 9、5、9
- ③吉村和/平野 (野田学園高) 9、8、9
- ④張/高木和 (東京アート) -4、7、10、6
- ⑦吉村真/藤村 (愛知工業大) -6、7、3、7
- ⑧松平/上田 (協和発酵キリン) -11、9、9、-5、8
- ②岸川/水谷 (ファースト/beacon.LAB) 8、11、8
- 安藤/時吉 (岐阜信用金庫・ZEOS)

◆準々決勝◆

- 森田/三宅 6、-5、-13、11、11
- 加藤/吉田
- 吉村和/平野 8、12、-7、5
- 森田/軽部
- 張/高木和 3、-7、9、9
- 吉村真/藤村
- 岸川/水谷 11、4、-6、6
- 松平/上田

◆準決勝◆

- 森田政崇/三部航平 6、6、-6、-10、5
- 吉村和弘/平野晃生
- 岸川聖也/水谷隼 3、4、5
- 張一博/高木和卓

◆決勝◆

- 森田政崇/三部航平 9、7、11
- 岸川聖也/水谷隼

女子ダブルス

◆5回戦◆○数字はランキング

- ①平野早/石川佳 (ミキハウス/全農) -6、7、8、-8、5
- ②平野美/伊藤 (JOC エリートアカデミー/スターツSC)
- ⑦石川梨/加藤美 (JOC エリートアカデミー/帝京/JOC エリートアカデミー) 3、-7、7、-7、7
- ⑥土田美紀/三宅 (中国電力) 11、-8、-8、13、9
- ④田代/藤井 (日本生命) 7、-9、11、9
- ③中村/市川 (日立化成) -6、4、-6、7、10
- ⑤土井/宋 (中国電力) 6、-2、4、8
- ②阿部/森園 (四天王寺高) 4、8、13
- ⑧中川/土田美佳 (中国電力) 5、5、-4、9
- 根本/大森 (十六銀行)
- 河村/森永 (アスモ)

◆準々決勝◆

- 平野早/石川佳 -9、8、5、13
- 石川梨/加藤美
- 田代/藤井 -5、7、-8、6、3
- 土田美紀/三宅
- 中村/市川 8、-8、9、-8、8
- 土井/宋
- 阿部/森園 4、6、9
- 中川/土田美佳

◆準決勝◆

- 平野早矢香/石川佳純 6、5、7
- 田代早紀/藤井優子
- 阿部愛莉/森園美月 8、9、10
- 中村薫子/市川梓

◆決勝◆

- 平野早矢香/石川佳純 6、-9、-7、12、8
- 阿部愛莉/森園美月

混合ダブルス

◆4回戦◆○数字はランキング

- ④時吉/山梨 (ZEOS/ミズノ) 5、9、-6、5
- ⑦御内/竹前 (埼玉工業大/正智深谷高)
- ⑦御内/北岡 (シチズン/日立化成) 4、7、8
- ⑧英田/根本 (朝日大/十六銀行) 6、13、3
- ②松平/若宮 (協和発酵キリン/日本生命)
- ④山本/小道野 (早稲田大) 12、-3、5、9
- ③田添/前田 (専修大/希望が丘高) 6、10、9
- ⑥及川/宋 (青森山田高/中国電力)
- ①吉村/石川 (愛知工業大/全農) -7、2、7、9
- 鹿屋/阿部 (法政大/サンリツ)

◆準々決勝◆

- 時吉/山梨 4、8、6
- 御内/北岡
- 松平/若宮 5、2、9
- 英田/根本
- 田添/前田 5、6、-9、1
- 山本/小道野
- 吉村/石川 8、7、12
- 及川/宋

◆準決勝◆

- 松平賢二/若宮三紗子 5、3、4
- 時吉佑一/山梨有理
- 吉村真晴/石川佳純 6、4、8
- 田添健汰/前田美優

◆決勝◆

- 吉村真晴/石川佳純 6、9、8
- 松平賢二/若宮三紗子

記録

RESULTS

Table of tennis match results for Junior Boys, including names, schools, and match scores.

Table of tennis match results for Junior Boys, including names, schools, and match scores.

◆ジュニア男子4回戦◆

Table of tennis match results for Junior Boys 4th Round.

Table of tennis match results for Junior Boys 4th Round.

Table of tennis match results for Junior Boys 4th Round.

◆5回戦◆ ○数字はランキング

Table of tennis match results for Junior Boys 5th Round.

◆準々決勝◆

Table of tennis match results for Junior Boys Quarterfinals.

◆準決勝◆

Table of tennis match results for Junior Boys Semifinals.

◆決勝◆

Table of tennis match results for Junior Boys Final.

ジュニアベスト8使用用具

Table listing tennis equipment used by the top 8 Junior Boys players, including racket, face, and back.

トーナメント表 (トーナメントツリー) showing the progression of Junior Girls players from the first round to the final. The table is organized into columns representing rounds, with players' names and their respective schools listed. Brackets indicate the progression path, including winners and losers of each match. Key players like 伊藤美誠 (Ito Mitsuaki) and 早田ひな (Hina Hayashi) are highlighted as they progress to the final stages.

◆ジュニア女子4回戦◆

- 加藤 (JOC エリートアカデミー・東京) 3、4、7
神林 (新潟産業大附属高・新潟)
- 橋本 (四天王寺高・大阪) 5、6、10
笹尾 (横浜隼人中・神奈川)
- 鎌田 (駒大苫小牧高・北海道) 9、-6、9、3
牛嶋 (正智深谷高・埼玉)
- 早田 (石田卓球クラブ・福岡) 2、5、8
阿部 (ミキハウスJSC・大阪)
- 金子 (愛み大瑞穂高・愛知) 7、8、7
田口 (正智深谷高・埼玉)
- 木村 (ミキハウスJSC・大阪) 4、6、4
枝松 (山陽女子高・岡山)
- 三條 (四天王寺高・大阪) 7、6、-5、9
石川 (JOC エリートアカデミー/帝京・東京)
- 佐藤 (札幌大谷高・北海道) 10、2、7
青木 (ミナミラボ・福井)
- 浜本 (JOC エリートアカデミー/大原学園・東京) 6、7、-9、3
永田 (岩国商業高・山口)

- 山本 (福井商業高・福井) 8、-4、5、3
宇田 (横浜隼人中・神奈川)
 - 田中 (武蔵野高・東京) -9、3、7、10
木原 (ALL STAR・兵庫)
 - 伊藤 (スターツSC・大阪) 8、7、-8、-12、6
中澤 (希望が丘高・福岡)
 - 木村 (山陽女子中・岡山) 5、8、12
平 (正智深谷高・埼玉)
 - 芝田 (四天王寺高・大阪) 7、4、9
岡崎 (KTGクラブ・埼玉)
 - 馬場 (芦屋学園高・兵庫) 10、-8、9、-7、8
玉石 (明誠高・島根)
 - 平野 (JOC エリートアカデミー・東京) 7、6、8
朝田 (希望が丘高・福岡)
- ◆5回戦◆ ○数字はランキング
- 加藤 6、-9、7、9
 - 伊藤 5、6、7
 - 早田 9、8、5
 - 橋本
 - ②早田
 - ④木村

- ③三條 6、-8、8、-10、8
 - ⑤浜本 11、4、8
 - ①伊藤 9、-9、-8、2、7
 - ⑦芝田 4、1、8
 - ③平野 5、5、1
- ◆準々決勝◆
- 早田ひな -6、9、8、9
 - 木村香純 15、6、3
 - 伊藤美誠 -7、9、4、-9、7
 - 平野美宇 8、-9、2、8
- ◆準決勝◆
- 早田ひな 9、9、9
 - 伊藤美誠 5、-10、-5、4、12
- ◆決勝◆
- 伊藤美誠 8、9、9
 - 早田ひな

ジュニアベスト8使用用具

名前	ラケット (グリッパ)	フォア面 (厚さ)	バック面 (厚さ)
伊藤美誠	アコースティックカーボン (ST)	ファスターク G-1 (特厚)	モリスト SP (厚)
早田ひな	クリッパー CC (FL)	テナジー・05 (特厚)	テナジー・05・FX (特厚)
平野美宇	クリッパーウッド (FL)	テナジー・05 (特厚)	テナジー・64 (特厚)
木村香純	クリッパー CC (FL)	テナジー・64 (厚)	テナジー・05 (特厚)
浜本由惟	インナーフォース・ZLC (FL)	テナジー・05 (特厚)	テナジー・64 (特厚)
芝田沙季	クリッパーウッド CR (FL)	テナジー・80 (特厚)	テナジー・05 (特厚)
橋本帆乃香	朱世赫 (FL)	テナジー・05 (中)	カール P-1 (特薄)
三條裕紀	剛力 (FL)	VS > 401 (2.0mm)	カール P-3 (OX)